Ⅴ　業績目録

１ 著書・論文・投稿

著者	タ イ ト ル	出版社・書名・誌名ほか	発行年
矢澤　聰 大家　基嗣 中島　洋介	腎損傷	「臨床泌尿器科」編集委員会編：泌尿器科外来マスターバイブル,p.304-306,医学書院,東京	2019年
中島　洋介	鑑往知来	慶應義塾医学部新聞　第814号. p.1, 三四会医学部新聞編集室, 東京	2019年
中島　洋介	腎・尿管損傷	福井次矢、高木　誠、小室一成　総編集: 今日の治療指針私はこう治療している　2020. p.1199-1200, 医学書院, 東京	2020年
鈴木　貴博	川崎市立井田病院第８回災害医療訓練・令和元年度大規模地震時医療活動訓練合同訓練の実施報告	川崎市病院協会報　53：18-20	2020年
中村　哲也 藤村　知賢 佐野　淳一 嶋田　恭輔 有澤　淑人 大森　泰 掛札　敏裕 中村　謙一 宇山　一朗	ロボット胃癌手術の一般病院における導入（特にロボット支援下観音開き法再建について）	川崎市医師会医学会誌	2019年12月
吉野　裕美子 角田　梨沙 柴田　泰洋 佐藤　友隆 矢口　貴志 安西　秀美	蜂窩織炎様皮膚症状を呈し壊死性筋膜炎にいたった全身型皮膚クリプトコックス症の１例	真菌誌Vol.60,49-54	2019年
Ogawa A, Ogawa Y, Mukai S, Shimizu E, Kuwana M, Kawakami Y, Tsubota K	Cluster of Differentiation 30 Expression in Lacrimal Gland and Conjunctival Tissues in Patients With Sjögren's Syndrome: Case Series	Medicine. 2019;98(29):e16390	2019年
福島　沙紀	心理士の行うこころのケア ―川崎市立井田病院の例	青海社　緩和ケア Vol.30(2)pp.140-143	2020年
西　智弘	がんを抱えて、自分らしく生きたい がんと共に生きた人が緩和ケア医に伝えた10の言葉	PHP研究所	2019年
Masanori Mori, Maiko Fujimori, Tomohiro Nishi, et al	The Effects of Adding Reassurance Statements: Cancer Patients' Preferences for Phrases in End-of-Life Discussions. J Pain Symptom Manage.	J Pain Symptom Manage.2019;57: 1121-1129.	2019年
Nishi　T	Home　Visit　and　Palliative Care from Hospital.	Gan To Kagaku Ryoho.2019; 46:224-227	2019年
岩田　壮吉	D 処置及び手術 5ラパロスコピー（腹腔鏡）	産婦人科研修ノート　改訂第３版 p173-178, 診断と治療社, 東京	2019年
Masanori Mori, Maiko Fujimori, Tomohiro Nishi, et al	Adding a Wider Range and ″Hope for the Best, and Prepare for the Worst″ Statement: Preferences of Patients with Cancer for Prognostic Communication.	Oncologist. 2019; 24:e943-e952.	2019年

著者	タ　イ　ト　ル	出版社・書名・誌名ほか	発行年
久保田　敬乃	メサドンの使い方-「難治性疼痛」に対峙する-	治療 vol. 101 No. 12, 南山堂	2019年
増田　香織 佐藤　恭子	オピオイドの使い方		
佐藤　恭子	舌下投与できる薬剤とその応用		
宮森　正	皮下点滴		
加藤　薫	肝胆膵がんの緩和ケア		
中野　泰	呼吸器疾患の緩和ケア		
西　智弘	化学療法と緩和ケア・在宅ケアの統合		
尾崎　光一 長谷川　華子 荒井　亮輔 荒川　健一 中野　泰 加行　淳子 龍神　操 品川　俊人 杜　雯林 西尾　和三	治療中に一過性に皮膚病変の悪化を認めた粟粒結核の１例	結核94巻10号 Page491-495	2019年
畔柳　裕二 西本　和正 小久保　哲郎	第2趾が伸長しDIP関節が屈曲変形をきたした1例	日本足の外科学会雑誌40巻１号 Page227-230	2019年
Watanabe Y Saisho Y Inaishi J Kou K Yamauchi A Kanazawa Y Okubo Y Tokui M Imai T Murakami R Tsuchiya T Sasaki H Masaoka T Irie J Meguro S Itoh H ; Twin-exenatide Study Group.	Efficacy and safety of once-weekly exenatide after switching from twice-daily exenatide in patients with type 2 diabetes.	J Diabetes Investig. 2020 Mar;11(2):382-388. doi: 10.1111/jdi.13146. Epub 2019 Oct 8	2019年

２ 学会発表

演者	演題名	学会名	場所	発表日
岩本　源太 栗田　華代 柳澤　昌宏 横溝　由美子 品川　俊人 小宮　敦 中島　洋介	ブライダルチェックで指摘された思春期前期奇形腫の一例	第96回神奈川県泌尿器科医会	聖マリアンナ医科大学病院	2019年7月13日
中村　公彦 中村　哲也 藤村　知賢 嶋田　恭輔 夏　　錦言 有澤　淑人 大森　泰 掛札　敏裕	一般病院におけるロボット支援下胃癌手術の導入	第135回 神奈川県慶應関連病院外科研究会	川崎	2019年11月12日
中村　哲也	383床（うち緩和・結核病棟63床）の一般病院におけるロボット支援下胃癌手術の導入 -有用性と問題点-	第32回 日本内視鏡外科学会総会	横浜	2019年12月6日
松崎　ひとみ 龍神　操 安西　秀美	左乳輪に生じた陰部外硬性下疳の１例	第884回東京地方会（四地区分会）	ソリッドスクエアホール	2019年5月18日
椎山　理恵 龍神　操 松崎　ひとみ 安西　秀美	口唇腫脹を呈した粘膜関連リンパ組織節外性辺縁帯リンパ腫(MALTリンパ腫)の1例	第83回日本皮膚科学会東京・東部支部合同学術大会	京王プラザホテル	2019年11月16・17日
鈴木　千尋 椎山　理恵 安西　秀美	（ス）酢酸リュープロレリン3か月製剤の皮下注にて下腹部に肉下種を形成した１例	日本皮膚科学会第887東京地方会（四地区分会）	ソリッドスクエアホール	2019年12月14日
大西　瑞恵 小野　岳志 芝　　大介 結城　賢弥 安達　さやか 太田　友香 下山　勝 坪田　一男	線維柱帯切除術後に生じた低眼圧黄斑症に対して濾過胞再建術と白内障手術で視力改善した一例	第30回日本緑内障学会	熊本	2019年９月６日～９月８日
熊谷　真里子 久須見　有美 重安　千花 藤井　かんな 山田　昌和 高野　洋之 岡部　直太 藤原　正親 柴原　純二	球結膜に発生した海面状血管腫の一例	角膜カンファレンス2020・第44回日本角膜学会総会・第36回日本角膜移植学会	東京	2020年２月27日～29日
三嶽　秀介	患者の核医学診療施設の入退出に係る安全確保に関する取り組み	第58回全国自治体病院学会	徳島	2019年10月24日
福島　沙紀	緩和ケアに従事する看護師へのバーンアウト予防に関する研究 ―看護師へのインタビューから―	日本ブリーフセラピー協会 第11回学術会議	宮城	2019年11月24日
猪狩雄一	下咽頭眼化学放射線療法後の救済手術で弯曲型喉頭鏡を用いたELPSを行い喉頭損傷を起こした1例	第30回日本頭頸部外科学会学術講演会	宜野湾	2020年1月31日

演者	演題名	学会名	場所	発表日
原田　裕子 森　　厚夫 小西　宏明 好本　達司 森　　光晴 浅原　祐太 林　　祥子 三木　隆久 三角　隆彦	冠動脈瘤２例の成因と治療戦略	第252回日本循環器学会関東甲信越地方会	東京	2019年6月15日
佐藤　弘康 市川　将 坂井　瞳 鏑木　秀夫 杜　　雯林 品川　俊人	広範なDCISに化生癌(扁平上皮癌)成分を伴った乳癌症例における組織像と細胞像の比較	第58回日本臨床細胞学会秋季大会	岡山県	2019年11月17日
杜　　雯林 猪狩　雄一 品川　俊人	成人女性の鼻腔軟骨間葉系過誤腫の一例	第108回日本病理学会総会	東京都	2019年5月9日
栗原　夕子 大成　晋平 鈴木　貴博	重症肺高血圧を合併し肺血管拡張薬の多剤併用療法により長期管理しえたSLEの一例	第63回日本リウマチ学会学術集会・総会	京都	2019年4月17日
西　智弘	外来通院がん患者の「外見変化」に対する意識調査	第24回日本緩和医療学会学術大会	パシフィコ横浜	2019年6月22日
西　智弘	暮らしの保健室における生老病死のワークショップ	第24回日本緩和医療学会学術大会	パシフィコ横浜	2019年6月22日
西　智弘	腫瘍内科と緩和ケアの統合	第24回日本緩和医療学会学術大会	パシフィコ横浜	2019年6月22日
加藤　薫 久保田　敬乃 西　　智弘 佐藤　恭子 石黒　浩史 小島　圭子 筒井　祥子 宮森　正	悪性腫瘍に伴う三叉神経痛に対してメサドンが有効であった２症例	第24回日本緩和医療学会学術大会	パシフィコ横浜	2019年6月21日
内田　悠生 中島　由紀子 森藤　彬仁 加藤　薫 荒井　亮輔 金澤　寧彦 西尾　和三 伊藤　大輔	ニューモシスチス肺炎(PCP)とカポジ肉腫(KS)の合併を認めたHIV-1感染症の1例	第655回内科学会関東地方会	東京	2019年11月9日
中島　由紀子	治療に難渋したHIV合併重症潰瘍性大腸炎の1例	第33回日本エイズ学会学術集会・総会	熊本	2019年11月27日 ～11月29日
雑賀　優鳥 高窪　毅 丹保　公成 金澤　寧彦	DPP4阻害剤(リナグリプチン)が重症化に関連したと考えられる急性間質性肺炎の一例	第５７回日本糖尿病学会関東甲信越地方会	パシフィコ横浜	2020年1月18日

演者	演題名	学会名	場所	発表日
河内　美穂 丹保　公成 高窪　毅 金澤　寧彦 中島　由紀子 西尾　和三 鈴木　貴博 伊藤　大輔 栗田　華代 山下　三代子	神経因性膀胱より気腫性膀胱炎および膀胱自然破裂を発症し腹腔内膿瘍形成に至った糖尿病の1例	第６５７回日本内科学会関東甲信越地方会	ステーションコンファレンス東京	2020年2月8日
中野　泰 荒井　亮輔 荒川　健一 加行　淳子 長谷川　華子 西尾　和三	間質性肺炎は肺結核治療に影響を及ぼすか?	第94回　日本結核病学会総会	大分	2019年6月
荒井　亮輔 中垣　達 長谷川　華子 中野　泰 加行　淳子 西尾　和三	健常者に発症した Mycobacterium xenopi 肺感染症の 1 例	第237回日本呼吸器学会関東地方会	東京	2019年11月
内田　悠生 西尾　和三 荒井　亮輔 長谷川　華子 中垣　達 中野　泰 加行　淳子 伊藤　大輔 杜　雯林 品川　俊人	足関節結核を合併した肺結核の１例	第658回日本内科学会関東地方会	東京	2020年3月
嶋田　恭輔	『最新の乳がんガイドラインから治療指針を再考する』 パネルディスカッション ディスカッサント	横浜北部・川崎エリア 乳がんガイドラインカンファレンス	新横浜グレイスホテル	2019年6月7日
嶋田　恭輔 （ポスター発表）	『乳腺悪性腫瘍手術を局所麻酔下で外来手術するための工夫 ― 局所麻酔のみでも効果的な疼痛コントロールが可能』	第27回 日本乳癌学会総会	京王プラザホテル / 新宿NSビル	2019年7月11日～7月13日
嶋田　恭輔	『HER2(-)進行再発乳がんで治療に苦慮した症例』	川崎 Breast Cancer Seminar ～HER2(-)進行再発乳がん治療を考える～	二子玉川 エクセルホテル東急 たまがわ 30階	2019年9月6日
嶋田　恭輔	『イブランスのエビデンスと投与の実際-やっぱり、イブランスはこう使う！？-』 パネルディスカッション ディスカッサント	Pfizer Breast Cancer Symposium 神奈川県北部	横浜ベイホテル東急 B2F アンバサダーズボールルーム	2019年11月13日
栗田　安里沙 嶋田　恭輔	『乳腺腫瘍摘出術を静脈麻酔併用せず局所麻酔のみで外来手術するための工夫』	神奈川県臨床外科医学会集談会	神奈川県総合医療会館	2019年12月21日
嶋田　恭輔	『内分泌療法抵抗後の治療を考える』 パネルディスカッション ディスカッサント	Educational Meeting on Advanced Breast cancer 2019	エーザイ株式会社　横浜コミュニケーションオフィス	2020年2月22日
嶋田　恭輔	『臨床像とバイオロジーから考えるこれからのHR陽性MBC治療戦略』　総合座長	KOBR in Kanagawa	エーザイ株式会社　横浜コミュニケーションオフィス 会議室２	2020年3月8日

演者	演題名	学会名	場所	発表日
浅野　尚文 菊田　一貴 保坂　聖一 ほか	骨巨細胞腫治療における denosumabの意義　当院および関連施設での治療経験	日本整形外科学会	川口	2019年7月
神川　正俊 畔柳　裕二 西本　和正	陳旧性舟状骨粉砕骨折に対してラフトプレートで治療した一例	日本足の外科学会	札幌	2019年9月
佐々木　洋介 田熊　清継 春成　学 高橋　俊介 清水　梨々花	明らかな外傷契機のない環椎骨折にて初めて腫瘍を指摘された１例	第70回日本救急医学会関東地方会学術集会	前橋	2020年1月18日
村岡　渡 臼田　頌 西須　大徳 清水　博之 永井　利樹 黄地　健仁 柴崎　俊一 吉川　桃子 矢島　祥助 浅野　崇浩 池田　浩 相馬　智也 勘生田　整治 中川　種昭 和嶋　浩一	口腔顔面痛疾患におけるPain Catastrophizing Scaleにおける病態別特徴の検討	第41回日本疼痛学会	名古屋	2019年7月12日
臼田　頌 黄地　健仁 工藤　葉子 西須　大徳 池田　浩子 勘生田　整治 河奈　裕正 中川　種昭 村岡　渡	頭痛が契機となりTMD と診断された「TMD に起因する頭痛」の1例 ※1	第32回日本顎関節学会総会・学術大会	東京	2019年7月27日
Muraoka.W.	Symposium: Non-odontogenic pain. Diagnostic and treatment of non-odontogenic pain.	19th Asian Academy of Orofacial Pain and Temporomandibular Disorders Scientific Meeting	Philippines, Manila	2019年10月20日
浅野　崇浩 矢島　祥助 村岡　渡	耳前部腫脹と帯状疱疹を生じたメトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の１例	第24回日本口腔顔面痛学会学術大会	川崎	2019年9月28日
菜原　正浩 臼田　頌 清水　博之 高橋　萌 黄地　健仁 西須　大徳 池田　浩子 勘生田　整治 中川　種昭 村岡　渡	顎の痛みから発現し当科受診までに視覚障害を生じた巨細胞性動脈炎の1例	第24回日本口腔顔面痛学会学術大会	川崎	2019年9月28日
村岡　渡	口腔顔面痛のLearning Management Systemの構築	第24回日本口腔顔面痛学会学術大会	川崎	2019年9月28日

※ １：優秀ポスター賞受賞。

3 講演・講師派遣

演者	演題名	会合名	場所	年月日
中島　洋介	泌尿器科の病気とのお付き合いについて	川崎市立井田病院出前講座	川崎市中原老人福祉センター	2019年9月6日
中島　洋介	尿にまつわるお話し	富士通健康教育講座	富士通川崎工場	2019年10月18日
掛札　敏裕	手術学総論　適応	川崎市立看護短期大学	川崎	2019年6月
掛札　敏裕	病態治療学III 外科	川崎市立看護短期大学	川崎	2019年7月
鈴木貴博	災害医療総論	令和元年度神奈川県災害時医療救護活動研修会（第２回）	横浜市	2019年7月25日
鈴木貴博	CBRNE災害について	令和元年度神奈川県災害時医療救護活動研修会（第２回）	横浜市	2019年7月25日
鈴木貴博	川崎市中部DMAT活動拠点本部・ 井田病院内SCU指揮所	令和元年度神奈川県大規模地震時医療活動訓練検証会	横浜市	2019年11月5日
鈴木貴博	災害医療の基本　災害医療の概論・災害医療の原則	令和元年度かながわDPAT研修	厚木市	2019年11月30日
鈴木貴博	当センターにおける関節リウマチ診療の取り組み	第26回梶が谷　腎・膠原病研修会　基調講演	川崎市	2019年12月4日
鈴木貴博	CBRNE対応について	令和元年度消防職員特別教育「救急救命士研修」 神奈川県消防学校	厚木市	2020年1月17日
夏　錦言	内視鏡下手術　総論	川崎市立看護短期大学	川崎	2019年6月
夏　錦言	内視鏡下手術　各論	川崎市立看護短期大学	川崎	2019年6月
夏　錦言	一般講演　座長	Gastric Cancer I-O Seminar in Kawasaki	川崎	2019年12月
夏　錦言	緩和ケア研修会の開催にあたって e-learningの復習・質問	2019年度川崎市立川崎病院緩和ケア研修会	川崎	2019年11月
谷内田　綾	パネルディスカッション「おじいちゃん、おばあちゃんが食べられなくなった時を一緒に考えよう」	第６回川崎南部摂食嚥下・栄養研究会　市民公開講座	川崎	2019年10月5日
森田　純子	血液曝露について	藤沢病院職員研修	藤沢病院	2019年7月16日
森田　純子	インフルエンザ・ノロウィルス対策について	帝京大学老人福祉センター職員研修	帝京大学老人福祉センター	2019年11月1日
森田　純子	インフルエンザ・ノロウィルス対策について	生田まほろば職員研修	生田まほろば	2019年11月22日
森田　純子	精神科病院における感染症の基本と対策	港北病院職員研修	港北病院	2019年11月25日
森田　純子	感染症法と届出	藤沢病院職員研修	藤沢病院	2019年12月2日
亀山　亜希夫	口腔介護スキルアップセミナー「おいしく安全に食べる介護調整食のコツ！」	川崎南部摂食嚥下・栄養研究会	川崎	2019年10月11日
亀山　亜希夫	「塩分とバランスを考える」	第110回　腎臓病講座	多摩病院	2019年11月16日
亀山　亜希夫	糖尿病療養指導士から糖尿病病態栄養専門管理栄養士～チーム医療のあり方	第23回病態栄養学会年次学術集会　シンポジウム４	京都	2020年1月25日
前田麻実	「バスキュラーアクセスについて」	透析センター院内講演会	井田病院	2019年12月12日
亀山亜希夫	「体重管理：水分と塩分を知ろう！」	透析センター院内講演会	井田病院	2019年12月12日

演者	演題名	会合名	場所	年月日
西　智弘	アドバンス・ケア・プランニング知っていますか	相模原協同病院市民公開講座	杜のホール はしもと	2019年9月30日
西　智弘	暮らしの保健室と社会的処方	医療と介護の総合展	幕張メッセ	2019年10月25日
西　智弘	緩和的鎮静と安楽死	日本医大武蔵小杉病院キャンサーボード	日本医大 武蔵小杉病院	2019年11月20日
西　智弘	地域包括ケアにおける顔の見える関係	横浜市大病院勉強会	横浜市大	2019年12月4日
西　智弘	アドバンス・ケア・プランニング	福井医大勉強会	福井医大	2019年12月13日
佐藤恭子	E-learningの復習･質問	がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会	川崎市立 川崎病院	2019年10月27日
久保田敬乃	がん患者の療養場所の選択、地域における医療連けり、在宅における緩和ケア	川崎市立井田病院緩和ケア研修会	川崎	2019年10月27日
春成　学 久保田　敬乃 西　智弘 佐藤　恭子 夏　　錦言	ロールプレイングによる演習、グループ演習	川崎市立井田病院緩和ケア研修会	川崎	2019年10月27日
佐藤　恭子	症状緩和のためのチームアプローチ～心理士介入と多職種カンファレンス	第21回川崎北部地域連携　がん治療・緩和ケアの会	川崎	2019年11月28日
西　智弘	緩和的化学療法・代替療法	第２回川崎市立井田病院スキルアップ研修会	川崎	2019年7月18日
加藤　薫	緩和ケアにおける緊急症とその対応	第４回川崎市立井田病院スキルアップ研修会	川崎	2019年11月21日
加藤　薫	医療依存度の高い患者の在宅看取り	第４回川崎市立井田病院かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会	川崎	2020年1月16日
佐藤　恭子	ロールプレイングによる演習、グループ演習	東京慈恵会医科大学付属第三病院　がん診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会	狛江	2019年11月10日
佐藤　恭子	ロールプレイングによる演習、グループ演習	東京慈恵会医科大学付属第三病院　がん診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会	狛江	2020年2月8日
久保田　敬乃	がん患者の難治性疼痛	第１回川崎市立井田病院スキルアップ研修会	川崎	2019年5月16日
小島　圭子	がん患者の慢性疼痛	第１回川崎市立井田病院スキルアップ研修会	川崎	2019年5月16日
中島　由紀子	「最近の感染症情報と感染管理について」	川崎市看護協会技術研修	川崎	2019年10月9日
金澤　寧彦	糖尿病よもやま話	井田病院出前講座	高津区明石穂団地集会所	2018年7月11日
金澤　寧彦	糖尿病よもやま話	井田病院出前講座	中原区	2018年7月25日
金澤　寧彦	糖尿病よもやま話	井田病院出前講座	高津区大戸地区社会福祉協議会集会所	2019年2月22日
金澤　寧彦	糖尿病よもやま話	井田病院出前講座	中原区	2018年7月25日
金澤　寧彦	糖尿病よもやま話	井田病院出前講座	高津区大戸地区社会福祉協議会集会所	2019年2月22日
岩田　壮吉	医療保険に関する諸問題	神奈川県母体保護法指定医師研修会	相模原南 メディカルセンター	2019年11月23日
岩田　壮吉	医療保険に関する諸問題	神奈川県母体保護法指定医師研修会	平塚プレジール	2020年2月22日
岩田　壮吉	子宮がんについて知っておきたいこと	川崎市立井田病院市民公開講座	井田病院	2020年1月16日

演者	演題名	会合名	場所	年月日
滝本　千恵	開会の辞	CKD-MBD EXPERT SEMINAR	横浜	2019年4月19日
滝本　千恵	座長	第64回日本透析医学会学術集会・総会「エボカルセト1」	横浜	2019年6月30日
滝本　千恵	「腎臓を守るために、気をつけたいこと」	第110回腎臓病講座	川崎	2019年11月16日
前田　麻実	「バスキュラーアクセスについて」	透析センター院内講演会	川崎	2019年12月12日
西尾　和三（座長）	セッションⅡ	第237回日本呼吸器学会関東地方会	東京	2019年11月23日
西尾　和三	慢性期病態学（呼吸器内科）	慶應義塾大学看護医療学部	東京	2019年7月5日
中島　由紀子	座長	第５回川崎感染症セミナー2019	川崎	2019年11月18日
定平　健（座長）	「当院における多発性骨髄腫の治療経験」横浜市立市民病院血液内科仲里朝周先生	Kawasaki Hematology Seminar	川崎	2020年2月19日
仁藤　紀子	保健医療福祉システムにおける訪問看護師の役割と機能	順天堂大学医療看護学部	浦安	2019年5月18日
仁藤　紀子	看護職員キャリアアップ研修	社会福祉法人セイワ	川崎	2019年7月10日 2019年7月12日
仁藤　紀子	在宅看護の実際と看護者の役割	川崎市立短大	川崎	2019年10月17日
福島　沙紀	「がんを患う親の子どもへの支援と死別後サポート」	第１回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会	川崎	2019年6月20日
岩本　基実	「がんの親をもつ子供のケア　１事例を通して」	第１回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会	川崎	2019年6月20日
大溝　茂実	「スキンケア・ストーマケア」	第２回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会	川崎	2019年8月15日
加藤　薫	「医療依存度の高い患者の在宅看取り」	第４回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会	川崎	2020年1月16日
仁藤　紀子	「医療依存度の高い患者の在宅看取り」	第４回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会	川崎	2020年1月16日
久保田　敬乃	「がん患者の難治性疼痛」	第１回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会	川崎	2019年5月16日
小島　圭子	「がん患者の慢性疼痛」	第１回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会	川崎	2019年5月16日
加藤　薫	「緩和ケアにおける緊急症とその対応」	第４回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会	川崎	2019年11月21日
今村　みれい	「がん患者の栄養療法」	第４回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会	川崎	2019年11月21日
伊東かつえ	「アピアランスケア」	第４回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会	川崎	2019年11月21日
武見　綾子	「がん患者の家族のケア」	第５回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会	川崎	2020年2月20日
安藤　孝	「医療倫理のおはなし」	第５回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会	川崎	2020年2月20日
佐藤　恭子	e-learningの復習・質問	川崎市立井田病院緩和ケア研修会	川崎	2019年10月27日

演者	演題名	会合名	場所	年月日
福島　沙紀	がん緩和ケアにおけるコミュニケーション	川崎市立井田病院緩和ケア研修会	川崎	2019年10月27日
久保田　敬乃	療養場所の選択と地域連携	川崎市立井田病院緩和ケア研修会	川崎	2019年10月27日
久保田　敬乃	ロールプレイングによる演習、グループ演習	川崎市立井田病院緩和ケア研修会	川崎	2019年10月27日
佐藤　恭子	ロールプレイングによる演習、グループ演習	川崎市立井田病院緩和ケア研修会	川崎	2019年10月27日
夏　錦言	ロールプレイングによる演習、グループ演習	川崎市立井田病院緩和ケア研修会	川崎	2019年10月27日
春成　学	ロールプレイングによる演習、グループ演習	川崎市立井田病院緩和ケア研修会	川崎	2019年10月27日
鈴木　果里奈	ロールプレイングによる演習、グループ演習	川崎市立井田病院緩和ケア研修会	川崎	2019年10月27日
深井　清乃	ロールプレイングによる演習、グループ演習	川崎市立井田病院緩和ケア研修会	川崎	2019年10月27日
大溝　茂実	ロールプレイングによる演習、グループ演習	川崎市立井田病院緩和ケア研修会	川崎	2019年10月27日
森　充子	ロールプレイングによる演習、グループ演習	川崎市立井田病院緩和ケア研修会	川崎	2019年10月27日
村岡　渡	歯科で役立つ頭痛の知識 臨床診断推論　症例デモと症例体験	日本口腔顔面痛学会主催 口腔顔面痛ベーシックセミナー	東京	2019年5月26日
村岡　渡	臨床診断推論実習　症例提示①	日本口腔顔面痛学会主催 口腔顔面痛診断実習セミナー	東京	2019年7月23日
村岡　渡	Demonstration Lesson of Clinical Reasoning for Diagnosis of OFP: Case of Demonstration: A 61-year-old female in the right maxillary toothache and cheek pain.	第19回アジア頭蓋下顎障害学会学術大会	フィリピン マニラ	2019年10月18日
村岡　渡	精密触覚機能検査研修会	第63回日本口腔外科学会総会・学術大会	札幌	2019年10月26日
村岡　渡	神経障害性疼痛の診断と薬物療法	第64回日本口腔外科学会　合同シンポジウム１　日本口腔顔面痛学会共同シンポジウム「口腔領域の神経障害」	札幌	2019年10月26日
村岡　渡	インプラント手術における痛みと神経損傷の予防と対応	横浜口腔インプラント研究会	神奈川	2019年9月12日
村岡　渡	歯が原因ではない歯の痛み？ ～日常に潜む非歯原性歯痛～	神奈川区歯科医師会	神奈川	2019年10月30日

Ⅵ　研修・実習

1　研修会

（1）放射線診断科

開催日		名　　称	学会・実施機関等
自	至		
4月11日	4月14日	第75回日本放射線技術学会学術大会	日本放射線技術学会
5月19日		2019年放射線従事者の教育訓練	神奈川県管理士部会
6月8日		神奈川PET･SPECT研究会 「腫瘍」	神奈川 PET･SPECT 研究会、日本メジフィジックス株式会社
6月8日		第13回心血管撮影技術基礎教育セミナー	循環器画像技術研究会
6月22日		2019年度　第1回　関東Angio研究会	日本放射線技術学会関東支部
7月13日		第38回東京MRI研究会	東京MRI研究会
7月20日		医療被ばく線量管理セミナー	東陽テクニカ
7月27日		第420回神奈川核医学研究会定例会	神奈川核医学研究会
8月3日		適正なCT診療を考える	第15回イメージ神奈川 学術講演会
8月24日		第9回デジィタル･マンモグラフィを基礎から学ぶセミナー	日本放射線技術学会
8月24日		放射線治療専門放射線技師認定教育セミナー	日本放射線治療専門放射線技師認定機構
8月24日		第2回 MR 研究会「性能評価試験項目対策セミナー」	日本放射線技術学会　関東支部
10月7日		第 116 回神奈川県放射線治療技術研究会	神奈川県放射線治療技術研究会
10月27日		令和元年　神奈川県診療放射線技術講習会	神奈川県
12月14日		強度変調放射線治療の品質保証･管理	国立がん研究センター
1月8日		上部消化管撮影実践セミナー	神奈川県放射線技師会
1月12日		第28回放射線治療品質管理士講習会	放射線治療品質管理機構

開催日		名　　称	学会・実施機関等
自	至		
1月13日		第4回医療放射線安全管理責任者講習会	日本放射線技師会
1月18日		第70回デジタルマンモグラフィ品質管理講習会	乳がん検診精度管理中央機構
2月9日		第18回神奈川放射線学術大会	神奈川放射線技師会
2月16日		令和元年度神奈川県放射線技術講習会	神奈川県
2月16日		第3回画像等手術支援認定講習会	公益社団法人日本診療放射線技師会

（2）検査科

開催日		名　　称	学会・実施機関等
自	至		
4月6日		川崎糖尿病市民講座	川崎糖尿病懇話会
4月7日		GE Ultrasound Seminar in Kanagawa	GE
4月12日		肺癌検体取扱いセミナー2019	アストラゼネカ
4月18日		都臨技血液検査研究班研修会	都臨技血液検査研究班
4月20日		骨髄異形成症候群(MDS)セミナーin KANAGAWA	神奈川県臨床検査技師会　血液研究班
4月28日	4月29日	第44回日本超音波検査学会学術集会	一般社団法人　日本超音波検査学会
5月10日		輸血検査の基礎と実際　其の一	神奈川県臨床検査技師会輸血研究班
5月10日		【輸血】2019年度第2回研修会	神臨技輸血検査研究班
5月11日		ヘマトロジー講演会in tokyo 2019	ベックマンコールター
5月23日		シスメックスLIVEセミナー	シスメックス
5月24日	5月26日	Ultrasonic Week 2019	超音波医学会

開催日		名　　称	学会・実施機関等
自	至		
5月24日		神臨技　呼吸機能検査の進め方	神臨技　生理検査研究班呼吸器専門グループ
5月28日		SEKISUI コアグレーションミニセミナー	積水メディカル株式会社
5月31日		初心者のための心エコーセミナー	フィリップス
6月1日		第42回シスメックス学術セミナー	シスメックス
6月3日		第3回血液学技術講習会	日本臨床検査同学院　血液部会
6月7日		【輸血】2019年度第3回研修会	神臨技輸血検査研究班
6月7日	6月9日	第60回日本臨床細胞学会総会（春期大会）	日本臨床細胞学会
6月7日		神臨技微生物研究班研修会	神臨技微生物研究班
6月8日		第39回日本ホルター・ノンインベイシブ心電学研究会	日本ホルター・ノンインベイシブ心電学研究会
6月8日		第7回SMU糖尿病セミナー	SMU糖尿病セミナー、小野薬品工業、大日本住友製薬、ノバルティスファーマ、ロシュDCジャパン
6月14日		2019年度第1回血液研究班研修会	神臨技血液研究班
6月15日	6月16日	検体採取等に関する厚生労働省指定講習会	日本臨床衛生検査技師会
6月22日		STA Seminar in Tokyo	富士レビオ
6月23日		神臨技　循環器専門グループ　心エコー	神臨技
6月27日		Healthcare Excellence Forum Japan	アボットジャパン
6月28日		2019年度　全国自治体病院協議会臨床検査部会研修会	全国自治体病院協議会
6月29日		慶応心エコーカンファレンス	
6月29日		第16回SRL Update Forum	SRL

開催日		名　　称	学会・実施機関等
自	至		
6月30日		信濃町心エコーカンファレンス	
7月7日		令和元年度輸血検査実技講習会	神奈川県臨床検査技師会　輸血検査研究班
7月11日		第19回川崎市ICTカンファレンス	川崎市感染協議会
7月11日		糖Q会	アークレイ株式会社
7月11日		第1回川崎地区研修会	神臨技川崎地区
7月13日		キャノン自動分析セミナー	キャノンメディカルシステムズ
7月13日		第46回無侵襲心機能検査法研究会	ノバルティスファーマ株式会社
7月24日	7月27日	第66回日本不整脈心電学会学術大会	日本不整脈心電学会
7月28日		超音波基礎講習会	株式会社 US-ism
8月11日		第3回　ワンナップセミナー	神奈川県臨床検査技師会
8月18日		東京都臨床検査技師会　第31回一般検査実技講習会	東京都臨床検査技師会　一般検査研究班
8月24日	8月25日	第77回細胞検査士教育セミナー	日本臨床細胞学会
9月1日		第13回神奈川糖尿病療養指導士認定機構研修会	神奈川糖尿病療養指導士認定機構
9月1日		超音波基礎勉強会	株式会社パラメディカル／キャノンメディカルシステム株式会社
9月14日		医療機関と血液センターの合同カンファレンス	神奈川県合同輸血療法委員会/輸血用血液供給体制小委員会
9月21日	9月22日	2019年度　第1回細胞検査士養成ワークショップ	公益社団法人　日本臨床細胞学会細胞検査士会　精度保証委員会
9月29日		循環器専門グループ（通年講習会）	神臨技

開催日		名　　称	学会・実施機関等
自	至		
10 月 3 日	10 月 5 日	日本臨床検査自動化学会第 51 回大会	一般社団法人　日本臨床検査自動化学会
10 月 4 日		点から線で見る時代へ Flash Glucose Monitoring セミナーin 横浜	神奈川県内科医学会、アボットジャパン株式会社
10 月 11 日		腹部超音波講習会	神奈川県臨床検査技師会　超音波専門グループ
10 月 19 日	10 月 20 日	日本超音波医学会　第 31 回関東甲信越地方学術集会	日本超音波医学会
10 月 24 日	10 月 26 日	日本臨床検査自動化学会第 51 回大会	日本臨床検査自動化学会
10 月 24 日		腹部超音波講習会	神奈川県臨床検査技師会　超音波専門グループ
10 月 25 日		医用超音波基礎セミナー	フィリップス
10 月 25 日		信濃町心エコーカンファレンス	慶應義塾大学医学部循環器内科
10 月 26 日	10 月 27 日	関東甲信支部　日本医学検査学会	日本医学検査学会
10 月 26 日	10 月 27 日	日本心エコー図学会　秋期講習会	日本心エコー図学会
11 月 1 日		第 36 回糖尿病チーム医療の懇話会	川崎糖尿病懇話会、ノボ　ノルディスクファーマ株式会社
11 月 2 日		第1回 KIC 研究会　集中セミナー	KIC（Kanagawa Immuno Chemistory）研究会/シスメックス株式会社
11 月 5 日		災害医療救護通信エキスパート研修	総務省　エキスパート育成協議会
11 月 15 日	11 月 17 日	日本臨床細胞学会	日本臨床細胞学会
11 月 15 日		第 26 回日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウム	日本輸血・細胞治療学会
11 月 20 日		第 65 回神奈川県公衆衛生学会	神奈川県公衆衛生協会
11 月 28 日	11 月 30 日	第 49 回日本臨床神経生理学会学術大会	日本臨床神経生理学会

開催日		名　　称	学会・実施機関等
自	至		
11 月 29 日		シスメックス横浜セミナー	シスメックス株式会社
11 月 30 日		令和元年度赤十字血液シンポジウム関東甲信越	日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター
12 月 6 日		関東感染症懇話会	関東化学株式会社
12 月 8 日		GE Ultrasound Seminar in KANAGAWA	イノメディックス
12 月 11 日		第２回川崎地区研修会	神臨技川崎地区
12 月 14 日		ニッスイ感染症研究会	日水製薬株式会社
1 月 11 日		第 15 回神奈川県合同輸血療法委員会	神奈川県合同輸血療法委員会
1 月 16 日		糖Ｑ会	アークレイ株式会社
1 月 25 日		第６回血液研究班研修会	神奈川県臨床検査技師会、ノバルティスファーマ株式会社
２月１日	２月２日	第 31 回日本臨床微生物学会総会	日本臨床微生物学会
２月２日		メディカル展示会セミナー	スズケン
２月６日		第 20 回川崎 ICT カンファレンス	川崎 ICT カンファレンス
２月７日		第５回研修会	微生物研究班

（３）薬剤部

開催日		名　　称	学会・実施機関等
自	至		
5 月 31 日	6 月 2 日	第 13 回日本緩和医療薬学会年会	日本緩和医療薬学会
6 月 2 日		総会開催記念特別講演会	神奈川県病院薬剤師会
6 月 6 日	6 月 7 日	全国自治体病院協議会　薬剤部会研修会	全国自治体病院協議会

開催日		名　　称	学会・実施機関等
自	至		
6月9日		星薬科大学同窓会 神奈川県支部卒後研修会	星薬科大学同窓会 神奈川県支部
6月29日		第13回神奈川病院薬剤師感染症フォーラム	神奈川病院薬剤師感染症フォーラム
7月5日		全国都市立病院薬局長協議会研修会	全国都市立病院薬局長協議会
7月6日	7月7日	令和元年度がん専門薬剤師集中教育講座 東京会場1回目	日本病院薬剤師会
7月8日		ファーマシーマネジメント	神奈川県病院薬剤師会
7月11日		第19回川崎ICTカンファレンス	川崎ICTカンファレンス
7月13日		Y's Seminar 第16回医療関連感染と消毒のセミナー	製薬会社
7月18日		7月薬学合同研修会	神奈川県病院薬剤師会
8月24日	8月25日	日本病院薬剤師会関東ブロック第49回学術大会	日本病院薬剤師会
9月8日		東京薬科大学卒後教育講座	東京薬科大学
9月11日		部内研修（イメンドについて）	薬剤部･製薬会社MR
9月19日		部内研修（水・電解質について）	薬剤部･製薬会社MR
10月2日		部内研修（バイオシミラーについて）	薬剤部・製薬会社MR
10月6日		東京薬科大学卒後講座	東京薬科大学
10月8日		部内研修（高カロリー輸液・腎肝不全について）	薬剤部･製薬会社MR
10月16日	10月18日	第66回日本化学療法学会東日本支部総会/第68回日本感染症学会東日本地方会学術集会 合同学会	日本化学療法学会・日本感染症学会

開催日		名　　称	学会・実施機関等
自	至		
10月18日		薬剤管理研修会	全国自治体病院協議会
10月19日		第14回医療BSC学会認定指導者審査試験	日本医療BSC研究学会
10月30日		第5回 Pharmaceutical Conference in 川崎	製薬会社
11月2日	11月4日	第29回日本医療薬学会年会	日本医療薬学会
11月10日		東京薬科大学卒後講座	東京薬科大学
11月13日		部内研修（キイトルーダの副作用について）	薬剤部・製薬会社MR
11月16日		第14回神奈川病院薬剤師感染症フォーラム	神奈川病院薬剤師感染症フォーラム
11月20日		部内研修（輸液ルート、経腸栄養について）	薬剤部・製薬会社MR
12月22日		バランス・スコアカードセミナー 第一部	神奈川県病院薬剤師会
1月11日	1月12日	医薬品安全管理研修会	国際医療リスクマネージメント学会
1月18日		東京都病院薬剤師会ファーマシーマネジメント小委員会ワークショップ１日目	東京都病院薬剤師会
1月19日		神奈川県病院薬剤師会 バランス・スコアカードセミナー（２日目）	神奈川県病院薬剤師会
1月21日		スポーツファーマシスト実務講習（e-ラーニング）	日本アンチ・ドーピング機構
2月2日		日本老年薬学会WS	日本老年薬学会
2月5日		部内研修（血液製剤について）	薬剤部・製薬会社MR

開催日		名　　称	学会・実施機関等
自	至		
2月6日		第20回川崎ICTカンファレンス	川崎ICTカンファレンス
2月8日		東京都病院薬剤師会ファーマシーマネジメント小委員会ワークショップ２日目	東京都病院薬剤師会
2月14日	2月15日	日本環境感染学会総会・学術集会	日本環境感染学会
2月17日		薬の値引き交渉術　勉強会	全国自治体病院協議会
2月18日		部内研修（ミネブロについて）	薬剤部･製薬会社MR
2月26日		骨粗鬆症WEBセミナー	製薬会社

（４）看護部

開催日		名　　称	学会・実施機関等
自	至		
4月3日	9月24日	特定行為研修　在宅ケアモデル	公益社団法人日本看護協会 看護研修学校
8月30日	12月12日	認定看護師教育課程 摂食・嚥下障害看護	日本赤十字広島看護大学
9月2日	3月27日	特定行為研修　慢性疾患モデル	公益社団法人日本看護協会
4月7日	9月28日	認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター
5月9日	8月30日	認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	公益社団法人日本看護協会 看護研修学校
6月30日		重症度、医療・看護必要度評価者 院内指導者研修　　４名参加	東京ビックサイト
6月30日		重症度、医療・看護必要度評価者 院内指導者研修	CIVI研修センター秋葉原
6月30日		重症度、医療・看護必要度評価者 院内指導者研修　　２名参加	関内新井ホール
6月30日		重症度、医療・看護必要度評価者 院内指導者研修　　３名参加	神奈川県看護協会
8月26日	8月27日	高齢者支援と認知症患者の看護	神奈川県看護協会

開催日		名　　称	学会・実施機関等
自	至		
11月28日	11月29日	認知症患者に必要な専門的知識・技術を有する看護師を養成する研修	川崎市看護協会
7月13日	7月15日	第35回神奈川ストーマリハビリテーション講習会	神奈川ストーマ研究会
7月20日	7月21日	透析療法従事職員研修　２名参加	大宮ソニックシティ
9月24日	9月27日	保健師・看護師等基礎実践コース第３回	結核予防会研究所
6月4日		患者の安心につながる退院支援① ２名参加	神奈川県看護協会
6月17日	6月18日	実習生の学びを支援する臨地実習指導　　２名参加	神奈川県看護協会
6月24日	7月1日	やってみよう！看護研究 ～量的・質的研究の基本～	神奈川県看護協会
7月23日		在宅から見る退院支援　５名参加 ～在宅療養に向けた看護の連携～	神奈川県看護協会
7月25日		看護実践に活かせるフィジカルアセスメント～急変事例を通して～①	神奈川県看護協会
7月16日		実地指導者研修～共に支え合う新人教育～	神奈川県看護協会
10月9日		感染防止対策の基本～感染の拡大を防ぐ～　　４名参加	神奈川県看護協会
10月11日		がん患者のセルフケア支援～治療期の生活を支えるために～ ３名参加	神奈川県看護協会
9月6日		看護実践に活かせるフィジカルアセスメント～急変事例を通して～	神奈川県看護協会
9月11日		事例から学ぼう褥瘡ケアの実際① ３名参加	神奈川県看護協会
10月21日		家族看護～多様な家族を理解し支援するために～　　３名参加	神奈川県看護協会
8月26日	8月27日	高齢者支援と認知症患者の支援①	神奈川県看護協会
9月24日		高次脳機能障害の理解と生活再構築に向けた看護　２名参加	神奈川県看護協会

開催日		名　　称	学会・実施機関等
自	至		
9月19日		実地指導者研修～共に支え合う新人教育～	神奈川県看護協会
9月17日	9月20日	看護管理Ⅲ～看護師長に求める看護管理～	神奈川県看護協会
11月11日	11月12日	チーム力を高めるためのコミュニケーション　　２名参加	神奈川県看護協会
11月14日		フィジカルイグザミネーション・フィジカルアセスメントの基礎① ２名参加	神奈川県看護協会
12月6日		患者の安心につながる入退院支援② 　２名参加	神奈川県看護協会
12月10日		よく分かる周手術期管理 ３名参加	神奈川県看護協会
1月21日		フィジカルイグザミネーション・フィジカルアセスメントの基礎① ６名参加	神奈川県看護協会
2月7日		リスクセンスを高めるⅠ～安全意識を高めて防ぐ、転倒･転落･誤薬～	神奈川県看護協会
2月12日		終末期がん患者の緩和ケア～看護師ができる心理的サポート～	神奈川県看護協会
1月24日	1月27日	高齢者支援と認知症患者の支援②	神奈川県看護協会
2月29日		摂食嚥下障害のある患者の看護～食べることの意識とリスクの管理～　４名参加	神奈川県看護協会
10月23日	10月24日	新・看護管理～看護の管理をみつめ未来を拓く～　　３名参加	名古屋国際会議場
10月24日	10月25日	全国自治体病院学会 in 徳島 3名参加	アスティとくしま
11月22日	11月23日	第83回日本消化器内視鏡技術学会	大阪国際会議場
2月21日		令和元年度看護研究・活動報告会	川崎市ナーシングセンター

（５）食養科

開催日		名　　称	学会・実施機関等
自	至		
4月6日		川崎市病院栄養管理部会総会・研修会	川崎市病院栄養管理部会
4月13日		神奈川県栄養士会医療事業部会市民公開講座	神奈川県栄養士会医療事業部会
6月8日		川崎市病院栄養管理部会　研修会	川崎市病院栄養管理部会
6月15日		第6回神奈川急性期栄養管理研究会	神奈川急性期栄養管理研究会
6月29日		がん専門管理栄養士セミナー	日本病態栄養学会
7月6日		臨床栄養学セミナーⅠ	神奈川県栄養士会医療事業部会
8月24日		神奈川県摂食嚥下リハビリテーション研究会研修会	神奈川県摂食嚥下リハビリテーション研究会
9月18日		鶴見川崎ケアサークル･Mana･Bee	悠翔会在宅クリニック川崎
10月18日		臨床栄養学セミナーⅡ	神奈川県栄養士会医療事業部
10月29日		チームたま勉強会	神奈川摂食嚥下リハ研究会
11月9日		神奈川医療専門職連合会市民公開講座	神奈川医療職専門職連合会
1月11日		神奈川県栄養士会医療事業部　パワーアップセミナー	神奈川県栄養士会医療事業部会
1月24日	1月26日	第23回　日本病態栄養学会　年次学術集会	日本病態栄養学会
2月16日		2019年度摂食嚥下京浜ブロック研修会	日本栄養士会

（６）リハビリテーションセンター

開催日		名　　称	学会・実施機関等
自	至		
5月4日		橈骨遠位端骨折のリハビリテーション	Medical MARKSTAR
6月6日	6月9日	日本心理臨床学会　第38回大会	日本心理臨床学会
6月21日	6月22日	第24回日本緩和医療学会学術大会	日本緩和医療学会

開催日		名　　称	学会・実施機関等
自	至		
7月20日		内部障害理学療法領域講習会　呼吸器疾患と循環器疾患の基礎と臨床	神奈川県理学療法士会
7月27日		第5回地域包括ケア病棟研究大会 地域に寄り添う医療・介護連携のあり方	地域包括ケア病棟研究会
8月24日		第25回神奈川摂食嚥下リハビリテーション研究会	神奈川摂食嚥下リハビリテーション研究会
9月6日	9月7日	第25回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会	日本摂食嚥下リハビリテーション学会
9月8日		関節モビライゼーションセミナー 膝・股関節編	
9月21日		姿勢分析からの治療セミナー　上肢・体幹編	
9月21日	9月23日	第25回日本臨床死生学会　年次大会	日本臨床死生学会
9月29日		第27回神奈川嚥下研究会	日本耳鼻咽喉科学会
10月11日		調理実習セミナー「おいしく安全に食べる介護調整食のコツ」	川崎南部摂食嚥下・栄養研究会
10月11日		第32回日本サイコオンコロジー学会総会	日本サイコオンコロジー学会
10月17日		第8回呼吸疾患地域連携講習会 in 北部	呼吸器疾患地域連携講演会
10月19日	10月20日	子どもをもつ終末期がん患者・家族への支援 バタフライ・プログラム〟を学ぶ	Hope Tree
10月28日	10月30日	リハビリテーション心理職研修会	国立障害者リハビリテーションセンター
10月29日		ちーむたま全体会研修会「最期まで食べるを支える」	ちーむたま
11月3日	11月4日	第43回日本死の臨床研究会	日本死の臨床研究会
11月24日		日本ブリーフセラピー協会　第11回学術会議	日本ブリーフセラピー協会

開催日		名　　称	学会・実施機関等
自	至		
12月1日		運動器･中枢神経疾患の ADL 改善のための運動制御～徒手療法と PNF を用いて～	セラピストフォーライフ
1月12日		第 31 回臨床に生かす呼吸セミナー わかりやすい呼吸の知識（入門～基礎）	医学の友社
1月26日		脳卒中片麻痺にみられる基本動作パターンやリーチング特性をバイオメカニクスから考える	リハテックリンクス株式会社
1月26日		サルコペニアフレイル指導士研修会	日本サルコペニアフレイル学会
2月14日		「最期まで食べるを支えるスキルアップ研修会」	幸区訪問介護連絡会

（7）地域医療部・かわさき総合ケアセンター

開催日		名　　称	学会・実施機関等
自	至		
5月11日		日本ホスピス緩和ケア協会 関東甲信越支部大会	NPO 法人日本ホスピス緩和ケア協会
5月31日		神奈川県がん診療連携協議会 第1回相談支援部会会議 第1回研修会「がんゲノム医療とがん相談」	神奈川県がん診療連携協議会相談支援部会
6月4日		患者の安心につなげる入退院支援	神奈川県看護協会
6月7日	6月9日	第 67 回日本医療社会福祉協会全国大会	公益社団法人日本医療社会福祉協会
6月13日		訪問看護師養成講習会　地域で生活を支えるケアマネジメントの実	川崎市看護協会
6月30日		入院支援業務のシステム化と入退院支援の実際	日総研
7月4日		訪問看護師養成講習会　在宅における終末期ケア	川崎市看護協会
7月13日	7月14日	日本ホスピス緩和ケア協会 2019 年度年次大会・分科会	NPO 法人日本ホスピス緩和ケア協会
7月14日		日本ホスピス緩和ケア協会 緩和ケア病棟運営管理者セミナー	NPO 法人日本ホスピス緩和ケア協会

開催日		名　　称	学会・実施機関等
自	至		
7月14日		日本ホスピス緩和ケア協会 第6回ホスピス･緩和ケア領域における MSW セミナー	NPO 法人日本ホスピス緩和ケア協会
7月18日		訪問看護師養成講習会　在宅療養者を支える関係機関と社会資源	神奈川県看護協会
7月18日		神奈川県がん診療連携協議会 第２回相談支援部会会議 第２回研修会「災害における相談支援センターの役割について考える」	神奈川県がん診療連携協議会相談支援部会
9月23日		「川崎市入退院調整モデル」を活用！	川崎市看護協会
9月25日		「川崎市病院交流会」入退院調整・地域連携	川崎市看護協会
10月7日		訪問看護研修 井田訪問看護ステーション	病院局
10月10日		訪問看護研修　よろこび久末	病院局
10月16日		訪問看護研修　よろこび久末	病院局
10月29日		乳がん・子宮がん患者向け臨床心理士派遣事業に係る意見交換会	神奈川県健康医療局保健医療部がん・疾病対策課
11月18日	11月22日	令和元年度 第２回 医療ソーシャルワーカーリーダーシップ研修	国立保健医療科学院
11月25日		退院支援に関する研修会～地域包括ケア病床における入退院支援の役割と現状・課題～	神奈川県医師会
1月25日		2019 年度神奈川ホスピス緩和ケア交流会	神奈川ホスピス緩和ケア交流会（神奈川県立がんセンター）
2月12日		神奈川県がん診療連携協議会 第３回相談支援部会会議 第３回研修会「胃癌・腹膜播種の腹腔内化学療法について」	神奈川県がん診療連携協議会相談支援部会
2月13日		関東労災病院　医療連携講演会（入退院支援）「地域とともに関わった、頻回に救急車を呼ぶ患者の対応」	関東労災病院

２　実習指導

（１）検査科

期　間	実　習　指　導　名	学　校　名	人数
５月 13 日～８月 30 日	臨床検査臨地実習	湘央医学技術専門学校	2
５月７日～８月 23 日	臨床検査臨地実習	北里大学保健衛生専門学院	2

（２）薬剤部

期　　間	実習指導名	学　　校　　名	人数
５月 27 日～８月９日	病院実務実習	横浜薬科大学	1
８月 26 日～11 月８日	病院実務実習	慶應義塾大学	1
８月 26 日～11 月８日	病院実務実習	横浜薬科大学	1
11 月 25 日～２月 14 日	病院実務実習	横浜薬科大学	2

（３）食養科

期　　間	実習指導名	学　　校　　名	人数
２月 17 日～２月 28 日	臨床栄養臨地実習	神奈川工科大学	2

（４）地域医療部

期　　間	実習指導名	学　　校　　名	人数
５月７日～11 月 15 日	在宅看護学実習	川崎市立看護短期大学	21
７月５日～７月 25 日	在宅看護学実習	東京工科大学	2
10 月 28 日～10 月 29 日	在宅看護学実習	聖路加国際大学	2
11 月 11 日～２月 10 日	在宅看護学実習	東京医療学院大学	8

（５）看護部

期　間	実　習　指　導　名	学　校　名	人数
５月７日～10 月 25 日	老年看護学実習Ⅱ	川崎市立看護短期大学	75
５月７日～11 月 15 日	在宅看護論	川崎市立看護短期大学	21
６月４日～６月 10 日	基礎看護実践論Ⅱ	神奈川県立衛生看護専門学校	16
６月 10 日～10 月 31 日	緩和ケア	神奈川県立衛生看護専門学校	12
６月 20 日～６月 21 日	看護学概論	東京医療保健大学	6
７月１日～７月 11 日	基礎看護	武蔵野大学	4
７月８日～７月 24 日	基礎看護学実習Ⅱ	横浜中央看護専門学校	5
７月８日～７月 30 日	成人看護学実習Ⅰ	川崎市立看護短期大学	36
７月８日～７月 19 日	在宅看護学	東京工科大学	2
７月９日～７月 25 日	成人看護実践論Ⅰ	神奈川県立衛生看護専門学校	8
７月 12 日	緩和ケア病棟見学実習	川崎看護専門学校	20
８月 19 日～８月 21 日	在宅看護論　追実習	川崎市立看護短期大学	1
９月 10 日～９月 11 日	テーマ別実習「終末期にある患者の看護」	川崎市立看護短期大学	7
10 月 15 日～１月 21 日	緩和ケア「終末期ケア実践」	慶應義塾大学	12
10 月 28 日～11 月 22 日	成人・老年看護学	聖路加国際大学	10
11 月５日～11 月 14 日	テーマ別看護論	川崎市立看護短期大学	7
11 月 18 日～12 月 10 日	成人看護学実習Ⅱ	川崎市立看護短期大学	47
11 月 20 日～２月 13 日	在宅看護学	東京医療学院大学	8
11 月 25 日～12 月 19 日	認定看護師実習	聖路加国際大学	2

期　間	実　習　指　導　名	学　校　名	人数
11 月 26 日～12 月 11 日	統合実習	神奈川県立衛生看護専門学校	7
1 月 7 日～ 1 月 24 日	老年看護実践論Ⅲ	神奈川県立衛生看護専門学校	5
1 月 14 日～ 2 月 6 日	基礎看護学実習Ⅱ	川崎市立看護短期大学	39
1 月 29 日～ 2 月 14 日	基礎看護実践論Ⅱ-B	神奈川県立衛生看護専門学校	8
1 月 29 日・2 月 4 日・2 月 17 日・2 月 18 日・2 月 26 日	特定行為研修	日本看護協会看護研修学校	1

（６）教育指導部

期間	実習指導名	学校名	人数
4 月 1 日　～　4 月 12 日	ポリクリニック（呼吸器内科）	慶應義塾大学	1
4 月 15 日　～　4 月 26 日	ポリクリニック（腎臓内科）	慶應義塾大学	1
5 月 20 日　～　5 月 31 日	ポリクリニック（血液内科）	慶應義塾大学	1
6 月 3 日　～　6 月 14 日	ポリクリニック（腎臓内科）	慶應義塾大学	1
6 月 17 日　～　6 月 28 日	ポリクリニック（血液内科・リウマチ科）	慶應義塾大学	2
7 月 1 日　～　7 月 12 日	ポリクリニック（血液内科）	慶應義塾大学	1
7 月 16 日　～　7 月 26 日	ポリクリニック（リウマチ科）	慶應義塾大学	1
1 月 14 日　～　2 月 7 日	地域基盤型臨床実習（腎臓内科・呼吸器内科）	慶應義塾大学	1
1 月 14 日　～　2 月 7 日	地域基盤型臨床実習（消化器内科・眼科）	慶應義塾大学	1
2 月 10 日　～　2 月 28 日	地域基盤型臨床実習（呼吸器内科・糖尿病内科）	慶應義塾大学	1

Ⅶ　委員会

2019年度　院内各種委員会一覧

＊掲載内容は2019年度のもの

№	名　　称	委員長	役職	実施時期
	目的や内容			
1	**医療安全管理委員会**	中島　洋介	病院長	毎　月
	医療事故の防止策の企画立案、患者の安全確保、適切な医療の提供体制の確立、安全に係る委員会の統括			
2	**医療安全部会**	掛札　敏裕	副院長	毎　月
	インシデントレポート・事故報告書の事例分析、安全対策の実施			
3	**院内感染対策委員会**	中島　由紀子	感染症内科部長	毎　月
	院内感染の予防策の作成、予防対策の監視・指導等による感染防止			
4	**感染部会**	中島　由紀子	感染症内科部長	毎　月
	患者・職員における感染対策の徹底と質の向上			
5	**輸血療法委員会**	西本　和正	整形外科部長	隔　月
	輸血の安全確保、事故防止、輸血業務の適正・円滑な処理、血液製剤の有効利用の向上			
6	**放射線安全委員会**	山下　三代子	放射線診断科部長	随　時
	放射線障害の防止、安全の確保、放射線発生装置の安全管理の徹底			
7	**医療ガス安全管理委員会**	石川　明子	麻酔科部長	年１回
	医療ガス設備の安全管理による患者の安全確保			
8	**衛生委員会**	鈴木　貴博	副院長	毎　月
	職員の健康障害の防止と健康の保持増進及び職場環境の改善			
9	**働き方改革推進委員会**	中島　洋介	病院長	随　時
	病院職員の勤務環境を改善する取組を進めるとともに、医師や看護職員の負担の軽減、処遇改善に関する取組計画を作成し、評価や見直しを行う			
10	**薬事委員会**	荒井　園枝	副薬剤部長	毎　月
	医薬品の適正管理、効率的な運用の審議、薬物療法の向上			
11	**医療機器管理委員会**	好本　達司	循環器内科部長	毎　月
	院内に配置されている医療機器の管理・調整			
12	**透析機器安全管理委員会**	滝本　千恵	腎臓内科部長	随　時
	透析液水質確保加算の施設基準届出に必要となる水質管理実施や透析機器等の管理計画作成			
13	**医療事故防止対策委員会**	中島　洋介	病院長	随　時
	診療内容の監査機関			
14	**治験・臨床研究倫理審査委員会**	伊藤　大輔	副院長	毎　月
	倫理的、科学的及び医学的妥当性の観点から治験・臨床研究の実施及び継続の審議			
15	**倫理委員会**	掛札　敏裕	副院長	随　時
	医療行為に関し、倫理的・社会的観点からの審査			
16	**保険委員会**	伊藤　大輔	副院長	毎　月
	保険診療及び保険請求の適正化向上			
17	**DPC委員会**	清田　明子	医事課長	毎　月
	DPC制度に関する研修の実施			
18	**診療情報管理委員会**	保坂　聖一	整形外科担当部長	毎　月
	入院外来等診療情報の管理・運用、システムの検討			
19	**診療録管理委員会**	金澤　寧彦	糖尿病内科部長	毎　月
	サマリの作成、推進、管理、カルテ、訪問記録の質的向上の検討			
20	**救急医療運営委員会**	田熊　清継	救急総合診療センター所長	毎　月
	救急医療の取り組みの充実・強化			
21	**災害時医療等委員会**	鈴木　貴博	副院長	毎　月
	災害医療に関する準備、企画検討、訓練の実施			
22	**地域連携委員会**	西本　和正	整形外科部長	毎　月
	地域の医療機関との連携及び支援の推進、地域医療支援病院の認定を図る			

№	名　　称	委員長	役職	実施時期
	目的や内容			
23	**地域がん診療連携拠点病院推進委員会**	嶋田　恭輔	乳腺外科医長	毎　月
	地域がん診療連携拠点病院としての体制整備・推進			
24	**キャンサーボード**	嶋田　恭輔	乳腺外科医長	随　時
	がん患者の病態に応じた、より適切ながん医療の提供を図る			
25	**化学療法管理委員会**	西尾　和三	呼吸器内科部長	毎　月
	実施される化学療法のレジメン（治療内容）の妥当性の評価・承認			
26	**クリニカルパス委員会**	保坂　聖一	整形外科担当部長	毎　月
	クリニカルパスの作成・運用			
27	**褥瘡対策委員会**	安西　秀美	皮膚科部長	隔　月
	褥瘡対策の企画立案、対策の推進、管理・運営			
28	**NST（栄養サポートチーム）運営委員会**	栗原　夕子	内科担当部長	毎　月
	栄養管理を通じた、安全で効率的な医療サービスの提供に寄与する			
29	**給食委員会**	栗原　夕子	内科担当部長	毎　月
	食事療法の質の向上			
30	**職員研修委員会**	伊藤　大輔	副院長	随　時
	教育研修に関する企画・実行・評価による職員の資質の向上			
31	**研修管理委員会**	金澤　寧彦	糖尿病内科部長	随　時
	初期臨床研修の企画立案、運用管理			
32	**図書委員会**	金澤　寧彦	糖尿病内科部長	毎　月
	図書室の適正な運用と医療情報の収集・提供による職員の業務資質の向上			
33	**機種・診療材料選定委員会**	伊藤　大輔	副院長	随　時
	導入する機器の仕様決定、公平かつ適正な機種確保及び医療機器の試用の検討、効率的な物品調達			
34	**市民交流・サービス向上委員会**	武田　玲子	副院長	毎　月
	患者サービスの向上及び職場環境の向上			
35	**ホームページ・広報委員会**	筒井　康仁	事務局長	随　時
	ホームページの管理、広報「井田山」の編集企画、発行管理			
36	**臨床検査管理委員会**	岩田　壮吉	検査科部長	随　時
	臨床検査の適正化・能率化を図る			
37	**外来診療委員会**	西尾　和三	呼吸器内科部長	随　時
	外来診療に関する諸問題の調整・検討			
38	**手術部委員会**	掛札　敏裕	副院長	毎　月
	手術室の有効な運営管理を図る			
39	**HCU委員会**	西尾　和三	呼吸器内科部長	隔　月
	HCU・CCUの有効な運営管理を図る			
40	**院内がん登録運用委員会**	掛札　敏裕	副院長	随　時
	地域がん診療連携拠点病院の指定要件A項目に追加された要件、「院内がん登録の運用上の課題の評価及び活用に係る規定の策定等を行う機関（委員会）を設置している」に対応する			
41	**地域包括ケア病棟運営委員会**	西本　和正	整形外科部長	隔　月
	地域包括ケア病棟への入院の可否の判定、入院順位の決定、その他入院に関すること			
42	**緩和ケア委員会**	佐藤　恭子	緩和ケア内科部長	毎　月
	緩和ケアの提供、運用が適切・円滑に行われるよう体制の整備・推進を図る			
43	**がんサポート・緩和ケア部会**	久保田　敬乃	緩和ケア内科担当部長	随　時
	井田病院及び地域のがん患者とその家族に対し、質の高い緩和ケアを提供することでQOLの向上を目指すことにより、がんのあらゆる時期において身体的・精神的・社会的苦痛を緩和するための診療・看護・相談・マネジメント活動を行う			
44	**緩和ケア病棟運営部会**	佐藤　恭子	緩和ケア内科医長	随　時
	緩和ケア病棟における治療方法、治療環境の管理・運営、他部門との調整、その他運営に関すること			

１　医療安全管理委員会

毎月第４木曜日を定例日として開催しました。医療安全部会を下部組織に持ち、院内感染対策委員会、輸血療法委員会、放射線安全委員会、医療ガス安全管理委員会、衛生委員会、薬事委員会、医療機器管理委員会を統括しており、各委員会での決定事項の周知の徹底と提案事項の検討及び承認、懸案事項についての検討を図りました。

（文責　書記[庶務課] 川口　文江）

２　医療安全部会

毎月第３火曜日を定例日として、各部門の毎月のインシデント報告の集計や医療安全情報の共有とともに、個々の事例の原因分析や再発防止策の具体的検討などを行いました。

また、委員会の班活動として、研修企画運営班、安全推進週間班、インシデント周知班の３班に分かれて、それぞれ活動しました。研修企画運営班では、医療安全の質の向上を図るため、研修会を４回開催しました。安全推進週間班では、医療安全に関する標語ポスターの募集・掲示とともに、患者間違いを発生させないための意識付けとして病棟ラウンドを実施しました。インシデント周知班では、事例を抽出して検討を行い、各部門・診療部と情報共有を図るなど再発防止に取り組みました。

（文責　書記[庶務課] 渡邊　崇大）

３　院内感染対策委員会

毎月第２月曜日に開催しています。内容として、BSI（中心静脈カテーテル関連血流感染）、UTI(尿道留置関連尿路感染)、SSI(手術部位感染)サーベイランス結果、針刺し・切創・粘膜曝露の報告、研修会開催の周知、感染症発生の際には事例報告と対策の共有等を行います。検査科からは血液培養2セット率・転入院患者の保菌状況・耐性菌検出状況・インフルエンザウィルス検出状況・一般細菌培養検査の AST(抗菌薬適正使用支援チーム)介入状況報告があります。薬剤部からは、届出対象抗菌薬使用届提出状況について、届出対象抗菌薬の使用状況、長期使用患者数、AST 介入状況等について報告があります。

2019 年度もインフルエンザや新型コロナウィルス感染症流行下にあって、医療従事者（委託業者含む）は全員マスク着用を義務付け、手指衛生等対策を徹底しています。またワクチン接種の啓発やマニュアルに沿った感染対策の対応で院内感染防止に努めています。

（文責　副委員長[感染対策室]森田　純子）

４　感染対策部会

2016 年度より感染対策の組織を見直し、コメディカルも含めた取り組みとして感染対策部会を設置しました。この部会は院内感染対策委員会の下部組織として設置し、日々の対策の見直し・改善・啓発活動に取り組んでいます。部会構成部署として、診療部・看護部・薬剤部・検査科・放射線科・リハビリテーション科・ME 管理室・食養科・事務部門で構成、組織的な活動を継続して実施しています。

取り組み内容として

（院内教育）

全職員が年間２回の研修会に参加できるよう部門毎に参加者の名簿を配布し、研修会参加への働きかけを行いました。また、適時調査・機能評価受審に際し、作成したマニュアルを必要部門に配布し、変更箇所の周知等も行いました。

（業務見直し）

主に部門ごとのマニュアルや手順書の見直し・修正を実施しました。今後も適宜見直しを行い、統一した対策の実施に取り組んで行きます。

（手指衛生）

感染対策の基本となる手指衛生の徹底を推進するため、毎月の使用量調査や啓発活動を実施しました。ポスターでは、個人使用量の上位ランク者や職種別・部門別使用量ランクについて発行しました。今後も適切な場面での手指衛生の実施や必要十分な使用量となるよう啓発活動を行っていきます。

（文責　副部会長[感染対策室]森田　純子）

５　輸血療法委員会

2019 年度の輸血療法委員会は、６回開催しました。血液製剤の使用状況や院内輸血療法に関する問題点等を中心に、輸血療法の適正化に努めました。

1.　主な検討項目

① 「院内輸血統一マニュアル」の改訂

② 「副作用報告看護記録」の記載方法変更

③ 「自己血返血インシデント」対策

2.　輸血用血液製剤の使用状況

輸血管理料Ⅱ(110 点)+適正使用加算(60 点)取得しています。

血液製剤	単位数
輸血患者数（実人数）	683
赤血球製剤	2420
新鮮凍結血漿製剤	324
濃厚血小板製剤	5325
HLA 適合血小板製剤	220
自己血	126
合計	8415
FFP/RBC 比(0.27 以下)	0.12

アルブミン製剤	本数
高張アルブミン [12.5g/50mv/瓶]	899
等張アルブミン [11.0g/250mv/瓶]	160
アルブミン使用量(g)	12997.5
アルブミン使用比(2.0 以下)	1.7

3.　副作用報告

副作用発生は 34 名、45 症状でした。

副作用報告内訳

投与製剤	赤血球製剤	新鮮凍結血漿製剤	血小板製剤	自己血	合計
報告数	19	4	21	1	45

輸血後感染症検査実施件数は 67 件、実施率 9.8%でした。

4.　院内研修会

本年度は、２回開催しました。

第１回 2019 年７月９日「血液製剤の取り扱いと実施体制＆輸血副作用・輸血後感染症」
講師　神奈川赤十字血液センター学術課落合氏
第２回 2020 年２月７日「院内の輸血実施手順をもう一度復習しよう！」
講師　検査科　髙橋　加奈子/松本　麗
第２回研修会では模擬製剤を使用し、輸血実施の実技も院内講演会に取り入れました。
新人看護師を中心に参加頂き、盛況に終えることができました。

本年度も無事故であったことを皆様に感謝致します。

（文責　委員会事務局　矢野　佐知子、委員長　西本　和正）

６　放射線安全委員会

放射線安全委員会は、医療法及び関連する法に基づき定められた井田病院放射線障害予防規程に沿って、放射線施設及び、放射線発生装置等が安全に管理運用されるよう必要な事項について調査・審議を行い、医療従事者や患者様の安全を確保する委員会で、2019 年度は、2020 年３月 12 日に行う予定でしたが、コロナウィルスの影響により、委員に資料配布での報告となりました。

報告事項

・放射線業務従事者の被ばく線量測定結果・健康診断結果について
2019 年度の放射線業務従事者の健康診断の対象者は、前期 83 名で受診者 77 名　後期 78 名で受診者 73 名　前期・後期とも診断結果では大きな問題はなかった。

・放射線施設自主点検結果について
2019 年９月 25 日及び 2020 年３月５日に行い、異常は認められなかった。

・医用放射性廃棄物の廃棄状況について
放射性医薬品の廃棄物、難燃物　50 ﾘｯﾄﾙ１缶, 焼却型フィルター（109 ﾘｯﾄﾙ）を 2020 年２月 17 日に日本アイソトープ協会に依頼して廃棄しました。

・放射線関連機器および放射線施設の管理状況について
リニアック装置の故障の状況については、９件の故障が発生し比較的軽微な故障でした。
保守点検については、計画通り実施しました。
ガンマカメラの故障は２件発生しました。保守点検では異常は認められなかった。
核医学検査室については、排気・排水設備点検・作業環境測定を実施しました。

・放射線測定器の校正について
治療用線量計　電離箱式サーベイメータとシンチレーション式サーベイメータの校正を行った。

・医療監視「放射線関連事項」について
放射線に関連する指摘事項は認められなかった。

（文責　副委員長［放射線診断科担当課長］村越　和仁）

7　医療ガス安全管理委員会

2019 年度は、１月 22 日（水）に委員会を開催しました。

2018 年度の医療ガス設備保守点検は、６・９・12・３月に行なわれ、６月の点検時にアフタークーラー用オートドレンと、予備空気のマニフォールドに不具合があったため、それぞれ部品交換調整等を行い、異常がないことを確認しました。また、３月の点検時に圧縮空気装置の出口オートドレンに作動不良が見られたため、2019 年９月にオートドレンの部品を交換し異常のないことを確認しました。その他の設備には、大きな異常はありませんと報告がありました。

また、CE設備定期自主検査においても 2018 年7月、2019 年1月に行われそれぞれ「異常なし」の報告がありました。

医療ガス設備の日常点検についても、異常や故障等はありませんでした。

2018 年度病院立入検査（医療監視）の中で医療ガス設備の書類審査を行いましたが、特に指摘事項等はありませんでした。

医療ガス安全点検に係る業務の監督責任者に石川委員長、実施責任者に毛利副委員長が任命されました。

（文責　書記〔庶務課〕濱田　信弘）

8　衛生委員会

〔構成〕

衛生委員会は、毎月第３木曜日に開催し、今年度は 12 回開催しました。

委員の構成は医師３名（産業医２名含）、衛生管理者１名、看護師２名、診療放射線技師１名、庶務課事務職２名、労働組合員４名、保健相談員１名の計１４名となっています。

労働安全衛生法第18条に基づき、職員の健康障害の防止と健康の保持増進および快適な職場環境の形成促進を目的としており、公務災害の原因および再発防止対策で衛生に係わるもの、その他衛生管理に関する事項について調査・審議しました。

〔定期健康診断等〕

例年のとおり、定期健康診断（雇入れ時健診・人間ドック含む）、深夜業務従事者健康診断、電離放射線業務者健康診断などの健診、HBV検査、結核予防目的の特定職場検診（年2回の胸部エックス線撮影）、結核の接触者検診（QFT〔クオンティフェロン検査〕を含む）を行いました。表1に受診状況を示します。

〔各種ワクチン接種〕

抗体価の著しく低い職員に対し、B型肝炎、麻疹、風疹、水痘及びムンプスのワクチン接種をしました。また、秋には原則的に全職員に対し、インフルエンザワクチンの接種を行いました。表２に接種状況を示します。

〔公務災害等〕

2019 年度の公務災害及び通勤災害の認定請求件数は９件でした。針刺し事故の中で、血液媒介型感染のリスクのあるものが３件ありました。注意喚起と再発防止に向けた取組みを行いました。表３に請求状況を示します。

〔職場巡視〕

産業医・衛生管理者の視点から、安全衛生についての目的を定めて巡視を行い、各職場へのフィードバックに努めました。

（文責　書記[庶務課] 西尾　朱実）

表１　2019 年度　定期健康診断等受診状況

健康診断（検診）の内容	対象者（人）	受診者（人）	受診率（%）
定期健康診断	655	623	95.1%
電離放射線健康診断（前期）	80	75	93.7%
電離放射線健康診断（後期）	78	73	93.5%
有機溶剤等取扱者健康診断（前期）	6	6	100.0%
有機溶剤等取扱者健康診断（後期）	6	6	100.0%
特定職場検診	105	105	100.0%

表２　2019 年度　ワクチン接種状況

ワクチンの種類	接種者数（人）
HBワクチン	28
麻疹ワクチン	67
風疹ワクチン	7
麻疹風疹混合ワクチン	22
水痘ワクチン	10
ムンプスワクチン	42
インフルエンザワクチン	893

表３　2019 年度　公務災害請求状況

疾病名	職種	被災日	治療	種類
HCV抗体陽性者による咬傷	看護師	2019/5/8	通院	公務災害
右手第２指挫傷	看護師	2019/5/8	通院	公務災害
頸椎捻挫	医師	2019/5/20	通院	通勤災害
HIV感染血による汚染の疑い	看護師	2019/9/1	通院	公務災害
感染血汚染の疑い	看護師	2019/9/17	通院	公務災害
右手第３指刺傷	看護助手	2019/9/20	通院	公務災害
手指湿疹	医師	2019/10/17	通院	公務災害
両手擦過傷	看護師	2019/10/19	通院	通勤災害
左足関節捻挫	薬剤師	2020/1/21	通院	通勤災害

９　働き方改革推進委員会

働き方改革推進委員会は、井田病院に勤務する病院職員の勤務環境の改善、医師及び看護職員の負担の軽減ならびに処遇の改善に関する取組計画を作成し、評価や見直しを行うことを目的としています。当委員会を設置するまでは病院職員の勤務環境等については他の会議や委員会等で議論していましたが、平成 30 年２月に厚生労働省の医師の働き方改革に関する検討会より「医師の労働時間短縮に向けた緊急的な取組」が示されたこともあり、川崎市病院局の方針として井田病院においても、平成 30 年 10 月に当委員会を独自に設置する運びとなりました。

委員会では、オブザーバーである病院局庶務課長からの説明を受け、川崎市働き方・仕事の進め方改革推進プログラムの再確認を行ったほか、職員の時間外勤務や出退勤管理等についての課題を抽出し改善に向けての検討を行いました。特に医師の長時間勤務の是正については、全医師の時間外勤務状況を IC カードも用いて月毎に調査し時間数の把握に努めています。また、本年度より義務づけられた年５日間の有給休暇の取得についても、職種ごとに期限を設けて消化状況を評価し、対応しました。

その他、医師の負担軽減および処遇の改善に資する計画として、タスクシフティングの推進、連続当直を行わない体制、当直室利用法の改善、当直体制課題の見直しなど、種々の改善を試みています。医師に向けては、働き方・仕事の進め方改革及び、時間外勤務の考えと申告について、３回に渡り病院長が説明会を行い、また、文書で通知して理解を求めました。今後も病院職員の勤務環境改善のため、委員会としての役割を担っていきたいと考えております。

（文責　委員長［病院長］中島　洋介）

10　薬事委員会

薬事委員会は、開催日を毎月第４月曜日と規定し、2019 年度は９回開催しました。

委員の構成は、医師８名，看護師１名，検査技師１名，医事課事務職１名，薬剤師３名の計 14 名です。

院内・外で使用する医薬品や検査試薬等に関する新規採用の可否および採用中止薬品についての審議のみならず、医薬品に関する様々な情報の共有や、問題点の検討等も行っています。

１．定期購入薬品、院外専用薬品等の審議について

新規採用の申請医薬品は「薬事委員会要綱」に基づいて審議し、その結果を院長等に答申し、承認を得て使用可能となります。

2019 年度に答申・承認された医薬品は、定期購入医薬品：26 品目、院外処方医薬品：29 品目でした。　また、一定期間使用実績のない薬品について、定期採用を取りやめる取り組みを行うことにより、採用薬品数の削減にも努めています。

後発医薬品への切り替えも鋭意進めており、2019 年度末における後発医薬品使用率（数量ベース）は、85.9%であり、国の指標とする 80%をクリアしています。

２．薬事委員会の議事録要旨

薬事委員会の議事録要旨は、その都度、薬剤部発行の「医薬品情報」誌に掲載しています。

（文責　書記　沼田　航遥）

11　医療機器管理委員会

医療機器管理委員会は医療機器安全管理責任者を中心に、医療機器の保守点検計画および実施の確認、医療機器教育研修、医療機器安全情報の周知等、医療機器に関する管理や運用等の検討を行っています。毎月第４水曜日に開催し、2019 年度の主な活動内容は以下の通りです。

① 医療機器の購入廃棄情報のまとめと配置状況の確認。
② 医療機器年間保守計画書の作成と実施の確認。
③ 委員会による医療機器研修の実施と部署研修の把握。
④ 医療機器安全情報の共有と検討。

今後も医療機器管理委員会では医療機器の適正な管理に努めて参ります。

（文責　［ＭＥセンター］千葉　真弘）

12　透析機器安全管理委員会

当委員会では透析で使用する水質の検査と、透析装置のメンテナンス状況を毎月確認し、適切な管理に向け検討を重ねています。透析で使用する水は透析医療の根幹であり、洗浄や準備、治療にいたる全てに影響するため細かい管理が求められます。2019 年度も適切な管理のもと実施し異常なく経過しました。今後も透析で使用する水の検査と、機器のメンテナンスに細心の注意を払い管理して参ります。

（文責　［ＭＥセンター］千葉　真弘）

13　医療事故防止対策委員会

医療事故防止対策委員会は、医療事故の原因究明と再発防止を目的に開催します。今年度は１回開催しました。

（文責［医療安全管理室］飯塚　千代）

14　治験・臨床研究倫理審査委員会

2019 年度より臨床研究における個人情報の取り扱いについて、１年に１回、適正に行っているのかを本委員会にて確認することとなりました。それに伴い、臨床研究の実施報告書または終了（中止・中断）報告書と共に個人情報の取り扱いに関する確認の回答を提出するよう各研究の責任者へ通知しました。開催日は従来どおり毎月第２水曜日と規定し、2019 年度は６回開催しました。

審議案件は臨床研究　５件、製造販売後調査　７件　となっています。

本委員会の手順書、委員名簿及び議事録は、井田病院のホームページに掲載しています。

（文責　委員会事務局　荻原　あい）

15　倫理委員会

当委員会は、院内で行われる医療行為及び医学の研究について、倫理的、科学的及び社会的観点から審査を行うことを目的としており、2019 年度は、次のとおり２件について審査を行いました。

	開催日	検討課題	審議の結果
第１回	２月 17 日	(1)「SADBE療法による重症円形脱毛症の治療」 (2)「フェノール法による陥入爪治療」	(1)　承認しました。 (2)　条件付き承認(他の代替治療法がない場合)としました。
第２回	３月 26 日		

（文責　書記[庶務課］鈴木　貴大）

16　保険委員会

当委員会は、病院長をはじめとして、副院長、各診療科の部長、看護師、コメディカルが活発な議論を行い、院内の査定、返戻状況を分析することで、適切な診療報酬につなげる大きな役割を果たしております。

コメディカル内での勉強会の実施や議事録等作成による全職員への周知により、診療報酬の知識、査定傾向、返戻対策が浸透し、職員一人ひとりの保険請求業務への意識向上が図られました。近年の診療報酬の審査の厳格化に伴い、当院における査定率についても高止まりしている状況でしたが、診療科別に診療内容と照らし合わせて請求が妥当かどうかを徹底的に分析した結果、査定率は減少傾向にあります。

併せて当委員会では審査支払機関の審査の状況を分析し、各保険者の審査傾向に対応した診療報酬請求を行うべく議論を重ねております。委員会において議論された内容は、すべての部門に周知を行い、積極的に再審査請求を行っています。

診療報酬請求業務を取り巻く環境は、年々厳しさを増しております。令和２年度の診療報酬の改定内容を踏まえ、診療科別の査定分析をさらに強化し、査定、返戻を少しでも減らすために、令和２年度においても引き続き積極的に活動してまいります。

（文責　委員長［副院長］伊藤　大輔）

17 DPC委員会

DPC委員会は、最も医療資源を投入した病名が適切か、正しいICD10コードに基づき傷病名が付けられているかを検証することを目的として設置しています。資源病名によっては副傷病が設定され、点数や入院期間が変わるため、DPCにより急性期医療が適切に評価・提供されるにはDPC対象病院として適切な傷病名コーディングを行うことが必要不可欠です。

DPC適用病院9年目を迎えた 2019 年度は、4回の保険委員会との同時開催を行いました。委員会では実際にあった症例を用い、カルテ記載、治療内容、サマリーと照らし合わせて、DPC制度及びアップコーディングの防止を含めた適正な傷病名コーディングの周知に取り組みました。DPC委員会の取り組みもあり、職員のDPC制度への理解やコスト意識は年々深まってきています。また、2020 年度の診療報酬の改定に向けて、外部講師による全職員を対象としたDPC制度勉強会を実施し、地域包括ケア病棟入院料の算定ルールの変更、副傷病の減少などによるDPC入院期間の変更について情報共有を図りました。

DPCによる診療報酬の支払い制度が拡大し複雑化する中で、より良いDPC制度の運用を行うために、今後は、診療科毎に関係者を集めて分析会議を開き、その診療科のDPCの特徴を分析した上で周知を行い、傷病名コーディング精度の向上やDPC制度の理解を推進させ、入院診療単価の向上を目指したいと考えています。

（文責　委員長［医事課長］高橋　智常）

18　診療情報管理委員会

本年度は 2019 年４月 23 日、５月 28 日、６月 25 日、７月 23 日、８月 27 日、９月 24 日、11 月 26 日、12 月 24 日、2020 年１月 28 日、２月 25 日、３月 24 日に委員会を開催いたしました。

４月はシステムの元号変更対応について説明しました。５月、６月は電子カルテバージョンアップのスケジュールについて説明しました。８月は消費税増税対応と内視鏡ファイリングシステムの更新

について説明しました。９月は放射線システムサーバーの増設について説明しました。10 月、11 月は電子カルテバージョンアップについて話し合いました。12 月は電子カルテバージョンアップの報告を行いました。１月は看護勤務記号の追加について説明しました。２月はラベルプリンターの印刷について話し合いました。３月は診療報酬改定対応について説明しました。

（文責　書記[医事課] 五十嵐　大介）

19　診療録管理委員会

2012 年度に診療情報管理委員会の部会として組織されていた診療録管理部会は、2013 年度より委員会に昇格して活動を開始しました。

2019 年度は、５回委員会を開催しました。

今年度、当委員会においては、電子カルテ内に新規登録や変更を提案された帳票の内容、診療情報管理規定の改定について検討し、承認、留保などの審査を行いました。

また、診療記録の適切な記載を維持していくために、診療情報管理室と連携し、内科系、外科系それぞれ２件のサマリーの質的点検を行いました。その結果については、担当医にフィードバックし、修正依頼をしました。１月に行われた病院機能評価に向け、委員会としてどう取り組むかについても、議論を重ねました。

今年度は、病院機能評価において指摘を受けた診療録の量的点検について、院内各部署とも連携し確実に実施するとともに、問題点についても話し合っていく予定です。

（文責　委員長[糖尿病内科部長] 金澤　寧彦）

20　救急医療運営委員会

当委員会は、突然の傷病で救急搬送される方々や、緊急受診される方々、あるいは院内で急変される方々に迅速に対応し応急処置を提供するため、救急センターを基軸とした救急医療体制を構築・整備することを目的に設置されました。具体的には、診療科間の協力体制の構築、当直業務の検討（部会）、救急隊との連携、救急関連医療資材の検討・救急教育や研修会の企画（部会）、災害時医療当委員会との連携、などをおこなっています。委員会開催日は、毎月第２水曜日です。

救急センターは開設から５年目となりましたが、2019 年度より救急総合診療センターとして再出発し、2020 年度からは準夜の救急体制の強化を図ります。ER からは救急後方病棟（3西病棟）に入院しますが、両者を一看護単位で運用する救急体制としています。

2019 年度の救急車応需数は、新型コロナウイルス対応の影響で大きく減少したものの 2,406 件（2018 年度 2,367 件）となり、前年度から若干増加しました。また、救命処置技術の習得に向けて、全職員を対象としたコールワンマスター研修を実施しました。

今後も救急科専門医の常勤化を含めた救急医療体制の見直しを行い、「断らない救急」の確立に向けて努めてまいります。

（文責　書記[庶務課]　岡本　拓郎）

21　災害時医療等委員会

当委員会は、救急医療検討委員会の下にあった災害時医療専門部会が 2015 年４月に委員会に格上げされたことにより設置されました。毎月第２木曜日を定例日として開催し、災害時医療に関する事項について約 50 人の委員で協議、検討しました。

当院は2015年3月に神奈川県災害協力病院の指定、2016年3月に神奈川DMAT-L指定病院に指定されるなど災害時に担う役割が大きくなってきています。

2019 年度の主な実績としては、① 災害対策マニュアルの改訂及び電子カルテ上への掲載 ② 災害時に備えての物品購入 ③ 衛星携帯電話、防災無線通信訓練の実施等があります。また、９月には都心南部直下地震を想定した災害医療訓練を病院全体で実施しました。傷病者のトリアージや、ヘリコプターによる患者搬送等、各エリアにおいて実践的な訓練を行いました。10 月の台風 19 号発生の際には、実際に対策チームを立ち上げ、関連部署との調整や他院からの患者の受け入れを行いました。

当委員会では今後も多くの訓練、研修会等を通じて更なる災害時医療の強化に努めてまいります。

（文責　書記［庶務課］　岡本　拓郎）

22　地域連携委員会

地域連携委員会は、「地域の医療機関との連携・支援を推進する。」ことを目的として、2014 年度に発足しました。

１　2019 年度の実績

（1）　委員会開催実績

2019 年度は、委員会を 11 回開催しました。以下に委員会での主な議題を記載します。

2019 年度　地域連携委員会の主な議題

日時	主な議題
４月 19 日 16:30～	◎ 紹介受入・他院紹介患者数について ◎ 診療のご案内について
５月 17 日 16:30～	◎ 紹介受入・他院紹介患者数について ◎ 地域連携の会について ◎ PET-CT について
６月 21 日 16:30～	◎ 紹介受入・他院紹介患者数について ◎ 市民公開講座について ◎ 症例検討会について
７月 19 日 16:30～	◎ 紹介受入・他院紹介患者数について ◎ 紹介患者入院・退院時報告書について ◎ 市民公開講座について
８月 16 日 16:30～	◎ 紹介受入・他院紹介患者数について ◎ 紹介患者入院・退院時報告書について
９月 20 日 16:30～	◎ 紹介受入・他院紹介患者数について ◎ クリニック訪問について ◎ 市民公開講座について
10 月 18 日	◎ 紹介受入・他院紹介患者数について

16:30～	◎ 紹介患者入院・退院時報告書について ◎ 市民公開講座について
11 月 15 日 16:30～	◎ 紹介受入・他院紹介患者数について ◎ クリニック訪問について ◎ 地域連携の会について
12 月 20 日 16:30～	◎ 紹介受入・他院紹介患者数について ◎ クリニック訪問について ◎ 院内委員会調査について
1 月 17 日 16:30～	◎ 紹介受入・他院紹介患者数について ◎ 市民公開講座について ◎ 地域医療部通信について
2 月 21 日 16:30～	◎ 紹介受入・他院紹介患者数について ◎ 症例検討会について ◎ 診療のご案内について

（2） 取組内容

ア クリニック等に対する当院医師の紹介

当院の診療科医師を紹介する冊子「診療のご案内」や地域医療部だよりを発行し、医療機関へ送付しました。

イ 地域連携の会の開催について

地域の医療機関といわゆる「顔の見える関係」を築き、その連携を強化することを目的とした地域連携の会を開催しました。

ウ クリニック訪問

2019 年度は 100 ヶ所を超えるクリニック・病院を訪問しました。

エ 紹介率、逆紹介率の基準にとらわれない運営

紹介された患者については、従来どおり紹介元に逆紹介を行います。原則紹介制を維持しつつ、紹介状のない患者も適切に受入れます。また、率ではなく紹介数、逆紹介数を目標化していくことになりました。

2 来年度に向けて

症例検討会をはじめとした各種研修会やクリニック訪問等により、継続的に地域の医療機関との連携強化を図ってまいります。

（文責 書記[地域医療部] 尾上 茂樹）

23　地域がん診療連携拠点病院推進委員会

地域がん診療連携拠点病院推進委員会は、「地域がん診療連携拠点病院として体制を整備し、推進する。」ことを目的として、2014年度に発足しました。

1　2019年度の実績

（1）委員会開催実績

2019年度は、委員会を６回開催しました。以下に委員会での主な議題を記載します。

2019年度　地域がん診療連携拠点病院推進委員会の主な議題

日時	主な議題
５月14日 17:00～	◎地域がん診療連携拠点病院の指定要件（新指針）に規定される診療実績について ◎平成31年度地域がん診療連携拠点病院推進委員会委員について
６月11日 17:00～	◎地域がん診療連携拠点病院の指定要件（新指針）に規定される診療実績について ◎県緩和ケア部会の報告について
７月９日 17:00～	◎地域がん診療連携拠点病院の指定要件（新指針）に規定される診療実績について ◎緩和ケアチームのピアレビューについて ◎県がん薬物療法部会ピアレビュー研修会について
８月13日 17:00～	◎地域がん診療連携拠点病院の指定要件（新指針）に規定される診療実績について ◎県がん診療連携協議会の参加報告について
10月８日 17:00～	◎地域がん診療連携拠点病院の指定要件（新指針）に規定される診療実績について ◎現況報告の提出について ◎緩和ケア研修会について
12月10日 16:45～	◎地域がん診療連携拠点病院の指定要件（新指針）に規定される診療実績について ◎院内委員会の調査について

（2）取組内容

地域がん診療連携拠点病院の指定継続

井田病院における地域がん診療連携拠点病院の指定期間については、2016年４月１日から2021年３月31日までの５年間となっておりますが、指定要件を満たしているかの現況報告は毎年行っております。よって、毎月開催される委員会の議題として診療実績（指定要件）の確認は欠かさず行っております。

主な指定要件は次のとおりです。

【診療実績】

◎院内がん登録数　500件以上

◎悪性腫瘍の手術件数　400件以上

◎がんに係る化学療法のべ患者数　1000人以上

◎放射線治療のべ患者数　200人以上

◎緩和ケアチームの新規介入患者数　50人以上

【診療従事者】

◎常勤専従の放射線治療医師
◎常勤専任の放射線診断医師
◎常勤の病理診断医師
◎放射線治療室に専任の常勤看護師１名以上
◎専従の化学療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の看護師
◎専任の細胞診断に係る業務に携わる者
◎「相談支援センター相談研修・基礎研修」（１）～（３）を修了した専従及び専任の相談支援に携わる者
◎国立がん研究センターによる研修を受講した専従の院内がん登録を担う者１人以上

２　来年度に向けて

平成28年４月１日から令和３年３月31日までの５年間、地域がん診療連携拠点病院として指定を受けておりますが、毎年現況報告の提出を求められますので、今後も指定要件についてはクリアしていかなければなりません。

また、ただ指定要件を充たせばよいだけではなく、当院は『かわさき総合ケアセンター』があることから、検診から診療、在宅医療から週末期医療までを行う「シームレスな医療」を提供する病院として更に力を発揮していかなければなりません。

次年度も委員の皆さんを中心として、病院が一丸となり、「地域がん診療連携拠点病院」を推進してまいります。

（文責　書記[地域医療部]　尾上　茂樹）

24　キャンサーボード

キャンサーボードとは、多職種のプロが集まり患者さんの治療方針を多方面から考え決定する会議です。2014年以前は、基本的には単科のみで治療方針を決定し、疾患自体が多臓器にわたる場合のみ複数科の医師で集まって治療方針を決定しているにすぎませんでした。しかし、2014年度からは、各科のカンファレンスになるべく複数の科の医師が参加するようにしただけではなく、看護師や病理検査、放射線診断部門など多部門で治療を検討できるようにしました。また、最初の治療のみならず治療の過程における二次治療決定をも、一時治療評価後にしっかりと検討していくように組織化されました。病理組織像を検討材料に取り入れている、臨床病理キャンサーボードも呼吸器センターや消化器センターが取り入れ、これまで実施してきております。

今後も、院内の多職種連携をつよめ、診療の質向上に取り組んでいきたいと考えます。

①　病院全体キャンサーボード

多臓器にまたがる症例や原発不明癌、特殊な生物学的進展を示すものを複数科の医師および他職種で話し合う最も大きなキャンサーボード。病理検査部や放射線診断部も参加する。年１～２回開催。

②　部門臓器別キャンサーボード

それぞれのセンターあるいは診療科を中心に行うが、その他に診療科例えば放射線診断部や緩和ケア科を巻き込み、また看護師・薬剤師・栄養士などの多職種も参加し、多方面からの検討を行う。

２－１　消化器キャンサーボード（原則２回／週）

外科の手術前に消化器および乳腺悪性腫瘍の症例を多職種で検討。また病棟入院後の悪性腫瘍患者についても

多職種で集まって治療方針を検討している。

2-2 乳腺キャンサーボード（原則１回／週）

2-3 呼吸器キャンサーボード（原則１回／週）

2-4 血液内科キャンサーボード（原則１回／週）

③ 臨床病理キャンサーボード

3-1 消化器センター臨床病理キャンサーボード

3-2 乳腺臨床病理キャンサーボード

3-3 呼吸器センター臨床病理キャンサーボード

（文責 委員［化学療法センター医長］西 智弘）

25 化学療法管理委員会

2019年度は月例として８回開催、レジメンの承認等について必要に応じて回議にて決裁を採り、新規・変更レジメンの審査、承認を行いました。2020年３月末で、10診療科から約260レジメンが登録されています。抗がん剤投与基準の見直し、化学療法センターの運用法の再検討などを行いました。2019年度の化学療法センターの稼働率は前年度よりも大幅に増加しており、医療安全を確保しつつ、より効率的な運用方法にマニュアルを改定いたしました。

委員会で承認されたレジメン及び、抗がん剤投与に関するマニュアルは、電子カルテシステムの初期画面に掲載しているため、どの職種でも閲覧可能です。

（文責 書記［薬剤部］内田 昌）

26 クリニカルパス委員会

本委員会は医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、栄養士、理学療法士、医事課より20名の委員で構成され、新規パスの立案や評価、運用中パスの問題点等を検討しています。例年月１回ペースで委員会を開催して参りましたが、本年度は年度末に新型コロナウイルスの感染拡大があり、年間では11回の開催となりました。2019年度院内全体のパス適用率は約34.1%でした。

当院では2019年末に病院機能評価の本体審査が行われ、クリニカルパスについてはサーベイヤーから新規パスの立案や評価のプロセスについて、またアウトカムの集計や評価について改善点が示されました。次年度に向けて改善を図ってゆく所存です。

委員会では目標である院内パス適用率40%以上を目指し、今後も新規パスの立案、質の向上を図って参ります。

（文責 委員長［整形外科担当部長］保坂 聖一）

27 褥瘡対策委員会

本年度は、隔月に定例会議を開催し、褥瘡回診は毎週木曜午後実施しました。褥瘡回診ののべ件数は120件でした。「悪化させない褥瘡ケア d2がD3にならないケアを考えよう」というテーマで11月28日全職員対象の研修を実施し、72名の参加がありました。

褥瘡推定発生率は1.61%、褥瘡推定有病率は6.63%、院内発生件数は86件（前年度増１件）でした。

（文責 副委員長［看護師長］大溝 茂実）

28 NST 運営委員会

入院患者個々の症例･病態に応じて適切な栄養管理を実施することを目的とし、2005 年度2月より NST 運営委員会を立ち上げました。2011 年２月に栄養サポートチーム加算の施設基準を届出て、2011 年３月から加算の算定を開始しました。2019 年度は専任の医師２名、看護師３名、薬剤師３名、管理栄養士２名（うち１名は専従)、＋歯科医師の体制で回診を行いました。歯科医師が回診に参加することにより 2016 年度から新設された歯科医師連携加算（50 点）を 2018 年度より算定開始することができました。

現在、毎週火曜日に回診・カンファレンスを実施し、低栄養患者への介入だけではなく、経腸栄養療法患者の栄養管理、手術予定者、抗がん剤治療予定者の栄養低下の予防のための介入も行っています。介入の結果、経口摂取だけではなく、経腸栄養や静脈栄養に関する介入が増加しています。

また、チーム内においては専従、専任者だけではなくリンクナースも回診に同行することにより、栄養サポートについて意識、知識の向上を図っていますが、今年度は症例報告・検討を行うことにより質の高いチーム医療を目指しました。院内スタッフに向けては院内勉強会を４回開催し、知識の向上を図りました。参加者は延べ 201 名でした。

回診患者数（延べ人数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介入数	74	72	93	103	95	80	91	102	91	92	75	92	1060
加算数	63	62	81	85	72	63	70	74	66	66	61	72	835

（文責　委員長［内科担当部長］栗原　夕子）

29　給食委員会

給食委員会は隔月第３木曜日に開催し、2019 年度は６回開催しました。

委員の構成は医師４名、看護師１名、栄養士５名、オブザーバー給食委託業者２名の計 12 名となっています。

栄養管理の向上と充実、適正な病院食運営を図る目的で協議しました。毎回、検食率、検食簿記載内容と記載内容への対応を報告、給食材料費や患者給食数・栄養指導件数、給食業務委託状況、誤配膳や異物混入などのインシデントを報告しました。検食簿に記載された食器のべたつきについて、食器メーカーや洗剤業者と相談し、洗浄方法を見直すことにより改善したことを報告しました。また米の色が悪い、おいしくないという指摘について、来年度から米の入札仕様変更を行い改善に努めました。

嗜好調査の実施案を検討、２月に実施した食事アンケート結果を報告しました。満足度は「満足している」が 42.4％と昨年度の 43.4％と同様の満足度となりました。おかずに関しては、「おいしい」という割合が 37.6％と昨年度の 32.1％と比較し向上しました。おかずの味付けについて「薄い」の割合が 33.6％と昨年の 22.6％と比較し大幅に増加しました。薄味でもおいしい食を提供できるよう今後も要望等を検討し、献立作成に反映させ、よりよい食事を提供することで患者の満足度を向上させるよう努めていきたいと思います。

（文責　副委員長[食養科長]北岡　聡子）

30　職員研修委員会

2019 年度も例年同様に各委員会が中心となり、積極的に研修を実施しました。

主な職員研修は下表のとおりです。

（文責　［庶務課］壱岐　崇）

表　2019 年度の主な職員研修

開催日	研修内容	実施組織／講師
４月１日～４月12 日	初期研修医オリエンテーション	教育指導部 各関係部署
６月 13 日	平成 31 年度看護部 「重症度、医療・看護必要度」研修	職員研修委員会 看護記録委員会
６月 21 日・28 日 ７月４日・９日	感染対策研修 「旅行関連感染症について」	感染対策研修会 感染症内科中島医師
７月 11 日	平成 31 年度看護部 「重症度、医療・看護必要度」研修	看護部記録委員会
８月６日	NST 研修会 「経管・経腸栄養について」	NST 運営委員会 亀山管理栄養士
８月８日	平成 31 年度看護部 「重症度、医療・看護必要度」研修	看護部記録委員会
８月 21 日・30 日 ９月 11 日	感染対策研修 「CDI について」	感染対策研修会 森田看護師 杉田臨床検査技師
10 月１日	NST 研修会 「口腔ケアについて」	NST 運営委員会 矢島歯科医師
10 月 11 日・31 日 11 月 18 日	感染対策研修 「インフルエンザについて」	感染対策研修会 リウマチ科栗原医師 小林薬剤師 杉田臨床検査技師 森田看護師
11 月 14 日・25 日	職員研理委員会 「情報セキュリティ及び個人情報保護制度の研修開催について	職員研修委員会
12 月３日	NST 研修会 「食事摂取量の記入と評価のポイント」	NST 運営委員会 清宮管理栄養士
12 月 12 日	平成 31 年看護部 「重症度、医療・看護必要度」研修	看護部記録委員会
１月 24 日 ２月７日・17 日	感染対策研修 「下痢について」（１回目のみ新型コロナウイルスについても含む	感染対策研修会 感染症内科中島医師 菊池臨床検査技師 井原看護師
２月４日	NST 研修会 「簡易懸濁法の実践と問題点」	NST 運営委員会 小川薬剤師

31　研修管理委員会

2019 年度の初期研修医は、２年目は、尾崎光一先生、栗田安里沙先生、清水裕介先生、志村祥瑚先生、森藤彬仁先生の５名でした。１年目は、岩﨑達朗先生、内田悠生先生、河内美穂先生、清水梨々花先生、館山大輝先生の５名と、慶應義塾大学病院の地域－大学循環コースの金理紗先生、溝口敬次先生の２名でした。

委員会では、初期臨床研修医のプログラム修了判定や、履修実績及び今後の履修計画等の報告をしました。また、新専門医制度に対応するため、各診療科との情報共有の徹底を図りました。

（文責　書記[庶務課]　壱岐　崇）

32　図書委員会

2019 年度は前年度同様予算をつけて頂き、年間５回の図書委員会内で各部署より挙げて頂いた購入希望図書・雑誌・各種データベース等について協議をいたしました。2019 年 12 月の PubMed LinkOut 機能の終了に伴い、PubMed 検索結果より当院の所蔵状況が表示されなくなったことによって、それを補うリンクリゾルバサービスの導入を検討しました。川崎病院との共同協議の結果、360Link の導入を決定しました。PubMed の他、医中誌 Web にもリンクを貼ったおかげで、文献の入手がよりスムーズになったと思います。図書委員会は今後も皆様の教育・研究支援をしてまいります。どうぞご協力の程よろしくお願い申し上げます。

（文責　委員長［教育指導部長］金澤　寧彦）

33　機種・診療材料選定委員会

当委員会は、医療機器の仕様の決定や診療材料の採用に関する審議を行っています。

2019 年度の委員会の開催と、審議を経て購入した機器、採用した診療材料は次表のとおりです。

また、第４回委員会においては院内滅菌期限切れ調査の実施について報告を行いました。

（文責　書記［庶務課］櫻山　研二）

2019 年度　機種・診療材料選定委員会における審議について

回	日時	医療器械の機種選定		診療材料の審議	
		番号	機器名	番号	診療材料名
第１回	4月22日	1	電気手術器（電気メス）		〈なし〉
		2	炭酸ガスレーザー		
		3	尿管鏡ファイバー		
第２回	6月17日	1	電子内視鏡システム		〈なし〉
		2	Qスイッチルビーレーザー		
		3	血液浄化装置		
第３回	8月5日	1	皮膚灌流圧測定装置		〈なし〉
		2	電子カルテ用サーバー		

第４回	11月1日	1	超音波画像診断装置（エコー）	1	V.A.C.ベラフロクレンズチョイスフォームミディアムキット
		2	院内がん登録システム	2	ディスポーザブルコントロールペンシル
				3	LINスネア
				4	モルセーフ
				5	ESSリニヤーカッター
第５回	11月29日		〈なし〉	1	ファインガード　ノンコアニードル
				2	セーフタッチPSVセット　ホルダー付き
				3	ファインガード　SVセット
				4	バードI.C.シルバーフォーリートレイB
				5	胃ドレナージバッグ
第６回	1月17日	1	超音波画像診断装置（エコー）		〈なし〉
第７回	2月25日		〈なし〉	1	神経麻酔関連製品の切替
				2	神経麻酔関連製品の切替

34　市民交流・サービス向上委員会

2019 年度、本委員会はボランティア活動を支援し、患者サービスの向上、療養環境の向上や市民の方々との交流を図る事を目的として「教育研修・広報部会」、「調査部会」、「投書部会」、「院内環境改善部会」、「ボランティア部会」の５つのグループ体制で、次のとおり活動を行ないました。

１　教育研修・広報部会

（１）教育・研修班

７月 31 日に当院コンシェルジュの鈴木祐佳さんと山崎恵美子さんを講師として「円滑なコミュニケーションを目指して」をテーマとした接遇研修（参加者 75 名）を行ないました。

（２）広報班

広報誌「市民交流・サービス向上委員会だより」を年２回、10 月と３月に発行し院内掲示と配布を行いました。10 月に作成した第１号で上半期の各部会の活動内容を、３月に発行した第２号で下半期の活動内容を紹介しました。

２　調査部会

（１）外来診療・会計待ち時間調査

第１回は７月 25 日に、第２回は２月 13 日に実施しました。

ア　外来診療待ち時間調査

第１回は外来患者 496 人に対し調査を実施し、平均診療待ち時間は 22 分でした。

第２回は外来患者 563 人に対し調査を実施し、平均診療待ち時間は 24 分でした。

イ　外来会計待ち時間調査

第１回は外来患者 383 人に対し調査を実施し、平均会計待ち時間は８分でした。

第２回は外来患者 424 人に対し調査を実施し、平均会計待ち時間は 14 分でした。

（２）満足度調査

８月７日、８日の２日間で外来患者満足度調査を実施し、調査票 500 部(有効回収数 476 部)を配布し回収しました。入院患者に対しては７月 26 日～９月 18 日に調査を行いました。総合満足度は、外来では 84.4%、入院では 93.1%が「満足＋やや満足」という結果になりました。また、職員に対しても８月 13 日から９月６日にかけて調査を実施しました。これらの結果について検証し、12 月５日に満足度調査報告会を行い、院内職員に対して報告をいたしました。

３　投書部会

毎週水曜日の午前中に外来、各病棟フロアに設置している投書箱から投書を回収し、その日の午後に部会を開催しました。また、頂いたご意見は担当部署に対応（回答）を依頼するとともに、三役会議にも投書内容を伝え対応結果等（回答）は投書者に返書及び院内掲示しました。

４　院内環境改善部会

院内･院外の環境の整備と病院利用者の視点で院内の快適性に配慮し安全で安らぎの療養環境を提供することを目標に活動しています。院内の掲示物や清掃の点検を行い、12 月 25 日には職員による病院周辺部の清掃活動を実施しました。

５　ボランティア部会

（１）院内コンサート班

ア　院内コンサート

次のとおり実施しました。

７月５日に女性コーラス「リジョイス」による七夕コンサート

８月 27 日に「マリアンネ　和田」によるサマーファミリーコンサート

９月 28 日にフランチャイズオーケストラ「東京交響楽団」によるコンサート

10 月４日に「鶴川グリーンエコーズ」によるコンサート

11 月 26 日にピアノとヴァイオリンによるクリスマスコンサート

12 月 25 日に「井田中学校吹奏楽部」によるクリスマスコンサート

１月 17 日に琉球民謡の演奏や舞踊による新春コンサート

イ　季節行事の院内飾り付け

次のとおり実施しました。

６月下旬から７月上旬にかけて七夕笹飾り付け

12 月　クリスマスの飾り付け

１月　正月の飾り付け

３月　ひな人形の飾り付け

（２）図書・囲碁・将棋班

年間を通じて、①外来・入院患者向けの図書の管理②ほっとサロンいだのサポート③囲碁・将棋による患者への娯楽の提供を行ないました。

（３）介護ボランティア班

年間を通じて介護ボランティア希望者の対応を行なうとともに、２月 18 日に当院看護師を講師に迎え「自然なからだの動かし方をやってみよう！」をタイトルに研修会を実施しました。また、研修会の終了後にはボランティア 26 名の方１人１人に感謝状を授与しました。

（4）展示班

安らぎと和やかな雰囲気の療養環境の提供を目標に5月の看護の日には井田病院の各職場を紹介するポスターを展示、6月～8月には「グラスアート」、9月～11 月、1月～2月に風景写真等、12 月にはMOA美術館による市内小学生の絵画の展示をしました。

（5）園芸・緩和ボランティア班

四季折々の季節が感じられる癒しの環境作りを目指し、年間を通じて草花の水やり、剪定、植え替えなどを行ないました。

（6）案内・イベント手伝い班

年間を通して外来フロア(受付・検査)の案内や相談、新ボランティアの指導・調整を行ないました。また、院内イベントや季節行事の院内飾り付け等の手伝いも行ないました。

（文責　委員長[副院長］藤原　実香）

35　ホームページ・広報委員会

ホームページ・広報委員会は、井田病院に関する情報を市民等に広報することを目的として設置しています。所掌事務は、ホームページの管理・運営等に関すること及び院内報の発行に関すること並びに病院に関する広報に関することです。市民や医療従事者等に向け、正確かつ分かりやすい情報提供を行えるようホームページの情報更新を適時行っており、また井田病院の情報をタイムリーに提供するため、委員で活発な情報収集と検討を行い、情報の発信を適時行っています。

2019 年度は委員会を３回開催しました。ホームページに関してはページ毎に院内の担当部署を決め、担当部署ごとに保守管理を行っています。院内報「井田山」に関しては、2019 年度は３回発行しました。

号数	発行日	ﾍﾟｰｼﾞ数	主な記事
第 65 号	５月 17 日	４	○病院長あいさつ ○新任副院長あいさつ ○新任医師紹介 ○診療科紹介「糖尿病内科」 ○食塩について ○市民公開講座のお知らせ
第 66 号	10 月 30 日	４	○レーザー治療専用機導入のお知らせ ○新任医師紹介 ○生き生きとした自然の動物の姿をお楽しみください！！ ○帰宅後・お食事前にはうがい・手洗いをしましょう！ ○令和元年９月７日実施第８回災害医療訓練について ○市民公開講座のお知らせ
第 67 号	１月６日	２	○病院長あいさつ ○患者満足度調査の結果について ○冬から春に向けての感染症　オリンピック・パラリンピック時の注意 ○市民公開講座のお知らせ

（文責　書記［庶務課］篠崎　誠）

36　臨床検査管理委員会

2019 年度の当委員会は、１月に１回開催しました。経過報告として、2019 年度の人事について、外注検査でのロシュ・ダイアグノティクス社製自動分析装置用機材の不具合による測定エラーに関する報告、生化学分析装置更新について報告しました。

検討内容として、医師・看護部と検査科の活発な意見をもとに、業務改善に向けて話し合いました。おもな検討内容は下記のとおりです。

・ホルマリンの管理厳重化のための運用について検討し、管理は病理検査室にて一元管理を行い、毎日使用する部門へ払出し、残りを回収して使用量の記録をすることとしました。

・ALP･LD の IFCC 標準化対応法について説明し、2020 年4月以降に JSCC 方から IFCC 法へ切り替えることが了承されました。

今後も本委員会を通じて、各診療科と看護部および検査科で、密接に意思疎通を図りながら、当院の診療体制をより充実したものにしていきたいと考えています。

（文責［検査科担当課長］佐野　剛史）

37　外来診療委員会

当委員会は、外来運用の安定稼動や患者サービス等の外来診療環境の向上を図るための検討を行うことを目的に設置しています。

2019 年度は、新型コロナウイルスの影響などで、5回の開催となりましたが、皮膚科移転に伴う配置、HP の文言、予約スケジュールの文言整理、院外処方箋の対応方法等について改善に向けて検討を行いました。

当委員会では、 2020 年度においても、引き続き、外来診療に係る様々な改善に向けて検討してまいります。

（文責　書記［医事課］酒井　俊明）

38　手術部運営委員会

2016 年度は手術室･ICU･CCU 運営委員会として麻酔科石川明子部長が統括責任者を務められ、様々な課題を検討および解決されてきました。2017 年度からはそれを引き継ぎ掛札が委員長を務めております。

懸案となっていた課題である手術枠の随時見直し、肺塞栓/深部静脈血栓症リスク管理、手術記録のチェック、縫合糸など消耗品および備品の管理、オンコール手術の入室手順、抗菌薬リスト管理など様々な課題を検討および解決してきました。

2018 年度に手術室は組織改編により手術部となりました。手術部運営委員会のメンバーも物品管理や滅菌管理、経理、庶務、医事を含み、従来の医師、看護師、放射線技師、臨床工学技士、薬剤師と多職種で様々な課題を検討することができるようになりました。

2019 年度には経理からの毎月の修理費の見える化によって、年度末には前年度比約 500 万円の節減を達成しました。消耗品の有効活用や廃棄品のチェックなども毎月の委員会で検討されています。感染対策室との連携で胃や大腸の手術に対する SSI サーベイランスも初めて施行されるようになりました。

今後コロナ対策などで、ますます手術部運営委員会の役割が重要になってきますが、委員全員でこの難局を乗り切る予定です。

（文責　委員長［副院長］掛札　敏裕）

39 HCU 委員会

2016 年度は手術室･ICU･CCU 運営委員会として麻酔科石川明子部長が統括責任者を務められ、様々な課題を検討および解決されてきました。2017 年度はそれを引き継ぎ掛札が委員長を務めましたが、2018 年度からは西尾呼吸器内科部長が委員長となり、より円滑な運営を行っております。

HCU 入室基準の一部見直しなどが行われ、心臓カテーテル後の入室を増やすなどより効率的な運営が行われています。入退室に関しては、特に問題なく運営されており、委員会の開催も毎月から隔月に変更されて最適化されております。2019 年度の具体的な入室患者数やその内訳などは、「集中治療室」の項目を参照してください。

（文責［副院長］掛札　敏裕）

40　院内がん登録運用委員会

「院内がん登録」とは、国が定める「がん登録等の推進に関する法律」に基づき、病院で外来、入院を問わず、当院を初診で診断、治療の対象となった悪性新生物と一部の悪性以外の新生物に対して、情報を収集し登録する仕組みです。

「がん診療連携拠点病院」である当院では必須要件として、毎年、「院内がん登録」業務を行い、作成したデータを院内がん登録データ、全国がん登録データとしてそれぞれ国と県へ提出しています。

「院内がん登録の運用上の課題の評価及び活用に係る規定の策定等を行なう機関」として本委員会は設置されており、本年度は、がん登録データを利用する際のルールを定めた「院内がん登録実施要項」の改定を行いました。

また、３月に院内がん登録支援システムが導入され、今後がん登録業務のスピードアップ、効率化、精度の向上が期待されます。

来年度は、「院内がん登録運用マニュアル」に則ったがん登録の実施に加えて、全国がん登録の仕組みを使った予後調査に取り組み、運用上の課題についても検討する予定です。

（文責　委員長[副院長］　掛札　敏裕）

41　地域包括ケア病棟運営委員会

地域包括ケア病棟は、急性期医療が終了した後に、リハビリテーションや訪問介護指導等を行い、在宅療養への退院支援を目的として平成 28 年４月に開設され、平成 28 年 11 月 1 日より、地域包括ケア病棟入院料２を算定する病棟として正式運営となり、今日に至っています。

令和元年度は委員会を６回開催し、地域包括ケア病棟への転床に当たっての運用上の課題を話し合い、レスパイト目的を含めた短期入院の際の利用方法及び流れ、院内デイサービス開設に向けた検討を行いました。

また、DPC 病棟と地域包括ケア病棟で、それぞれ出来高で算定できる主な項目についても確認を行いました。それに加えて、地域包括ケア見なし病棟運営ガイドラインの見直しを行い、見なしの表記をなくし、地域包括ケア病棟運営ガイドラインに改め、該当する条文に記載のあったケア病棟の表現を地域包括ケア病棟に変更しました。

令和2年度の診療報酬改定で、DPC の期間で地域包括ケア病棟の算定ルールも変わることから、それに対応した運営ルールの見直しを行いながら、今後とも地域との架け橋となる病棟として、近隣の病院や地域の開業医、

訪問介護ステーション等と協力して、在宅療養の実現に向けた地域包括ケア病棟の運用を行っていきたいと考えております。

（文責　委員長［整形外科部長］西本　和正）

《地域包括ケア病棟施設基準に関する実績》

1 リハビリの実施状況

	対象患者実数	延べ対象期間	実施単位数	平均単位数	一日の平均対象者数
5月	40	581	1385	2.38	18.7
6月	43	665	1590	2.39	22.2
7月	46	567	1444	2.55	18.3
8月	50	657	1417	2.16	21.2
9月	42	592	1261	2.13	19.7
10月	41	648	1477	2.28	20.9
11月	46	593	1468	2.48	19.8
12月	39	562	1333	2.37	18.1
1月	42	550	1275	2.32	17.7
2月	44	625	1440	2.30	21.6
3月	45	589	1476	2.51	19.0

施設基準　2.0以上

2 在宅復帰率

	在宅復帰率	退院者総数
5月	70.8%	49人
6月	83.3%	44人
7月	80.0%	41人
8月	74.5%	56人
9月	85.0%	41人
10月	88.6%	44人
11月	74.6%	64人
12月	74.4%	45人
1月	82.6%	46人
2月	79.2%	48人
3月	74.5%	51人

施設基準　70%以上

3 重症度、医療・看護必要度

	7対1病棟群	地域包括基準
5月	36.00%	27.70%
6月	33.40%	34.40%
7月	33.30%	27.10%
8月	33.90%	27.90%
9月	34.40%	24.40%
10月	32.30%	20.70%
11月	32.90%	23.00%
12月	33.10%	24.40%
1月	32.30%	25.40%
2月	31.80%	26.70%
3月	30.60%	26.85%

施設基準　25%以上　A項目1点以上が10%以上

4 病床稼働率

	入院患者延数	一日平均患者数	稼働率	在院日数
5月	1,099人	35.5人	78.80%	21.8日
6月	1,062人	35.4人	78.70%	25.0日
7月	1,153人	37.2人	82.70%	22.0日
8月	1,269人	40.9人	91.00%	22.5日
9月	1,071人	35.7人	79.30%	23.5日
10月	1,279人	41.3人	91.70%	26.9日
11月	1,154人	38.5人	85.50%	20.1日
12月	1,150人	37.1人	82.40%	21.9日
1月	1,203人	38.8人	86.20%	23.1日
2月	1,211人	41.8人	92.80%	25.2日
3月	1,034人	33.4人	74.10%	20.5日

《地域包括ケア病棟への転入実績》

1. 病棟別転入件数

病棟名	3西	4東	5西	5東	6東	7西	PCU	合計
件数	8	236	59	101	39	69	1	513

2. 診療科別転入件数

診療科名	内科	呼吸器内科	腎臓内科	糖尿病内科	肝臓内科	血液内科	循環器内科	リウマチ科	救急科
件数	79	23	47	23	52	9	37	19	1
診療科名	緩和ケア内科	消化器内科	外科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	合計	
件数	11	2	1	197	8	1	3	513	

42　緩和ケア委員会

緩和ケア委員会は、「緩和ケアの提供、運用が適切、円滑に行われるよう体制の整備、推進を図る」ことを目的として、2017 年度に新たに発足しました。2019 年度は、緩和ケア研修会、緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会、かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の準備運営を緩和ケア委員会が担い、計 11 回委員会を開催致しました。

1　2019 年度の実績

（1）委員会開催実績

2019 年度は、委員会を 10 回開催しました。以下に委員会での主な議題を記載します。

2019 年度　地域連携委員会の主な議題

日時	主な議題
4 月 23 日 16:00～	◎第１回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の担当確認 ◎第１回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の内容承認 ◎運営準備業務内容の確認、講師謝金についての確認 ◎日本ホスピス緩和ケア協会について ◎緩和ケア研修会の日程について
5 月 21 日 16:00～	◎第１回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の報告 ◎第１回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の担当確認 ◎年間の研修会予定の確認
6 月４日 16:00～	◎第２回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の内容承認 ◎第２回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の内容承認 ◎ピアレビュー（7/4）について
7 月２日 16:00～	◎第１回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の報告 ◎第２回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の担当確認 ◎第３回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の内容承認 ◎31 年度の緩和ケア研修会について
8 月６日 16:00～	◎第２回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の報告 ◎第２回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の担当確認 ◎第３回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の内容承認 ◎第３回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の内容承認 ◎講師謝金の来年度予算について
9 月３日 16：00～	◎第２回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の報告 ◎第３回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の担当確認 ◎第３回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の内容変更承認 ◎第４回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の内容承認 ◎遺族会（11/7）について

10月８日 16：00～	◎第３回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の報告 ◎第３回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の担当確認 ◎第４回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の担当確認 ◎緩和ケア研修会（10/27）について
11月５日 16：00～	◎第３回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の報告 ◎第４回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の担当確認 ◎第４回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の内容変更承認 ◎第５回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の内容確認 ◎緩和ケア研修会の報告 ◎遺族会の報告
12月３日 16：00～	◎第４回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の報告 ◎第４回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の担当確認 ◎第５回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の担当確認 ◎第５回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の内容承認 ◎機能評価について（2020年１月31日）
２月４日 16：00～	◎第４回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の報告 ◎第５回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の担当確認 ◎第５回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の内容変更承認 ◎機能評価の報告
３月３日 16：00～	コロナ感染拡大に伴い、中止

（2）緩和ケア研修会

2018 年度に引き続き、地域がん診療連携拠点病院として、「神奈川県単位型緩和ケア研修会」並びに「緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会」を開催しました。

① 神奈川県単位型緩和ケア研修会

10月27日（日）の１日間で開催しました。

この研修会は、「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」及び「神奈川県単位型緩和ケア研修会実施要綱」に準拠しており、医師は厚生労働省より、医師以外の医療従事者は神奈川県知事より、緩和ケア研修会修了証書が交付されます。

院内外より18人の参加があり、18名全員が修了証書の交付を受けました。

当院の受講率は、2019年６月１日現在で、ア.癌診療において主治医や担当者となる者94.7%、イ.ア以外の意思で、がん患者に対する診療を行う事がある者75.0%、ウ.病理診断医や放射線診断医など、がん患者との日常的な対面は想定されない者66.7%、エ.初期研修２年目から３年目の者0.0%でした。

令和元年度 川崎市立井田病院「神奈川県単位型緩和ケア研修会」プログラム

日時	テーマ	時間	担当者	役職・職種
10 月 27 日（日）	研修会の開催にあたって	10:00～10:15	佐藤 恭子	医師
	E-learning の復習・質問	10:15～11:15	佐藤 恭子	医師
	がん患者等への支援	11:25～11:55	榎本 悦子	患者代表
	昼食休憩			
	『コミュニケーション』	12:45～14:15	福島 沙紀	心理士
	がん緩和ケアにおけるコミュニケーション	○90 分１単位	佐藤 恭子	医師
	【講義】		夏　錦言	
	○がん緩和ケアにおけるコミュニケーション		村瀬 樹太郎	
	○がんと診断された時から行われる当該患者のがん治療全体の見通しについての説明		春成 学	
			安藤 孝	
			久保田敬乃	
	【ワークショップ】アイスブレーキング	11:10～12:40	大溝 茂実	
	○ロールプレイングによる患者への悪い知らせの伝え方についての演習	○90 分１単位	鈴木果里奈	看護師
			深井 清乃	
	○がんと診断された時から行われる当該患者のがん治療全体の見通しについての説明		森　充子	MSW
	休憩			
	『がん疼痛事例検討』	14:25～15:55	村瀬 樹太郎	医師
	【講義】	○90 分１単位	佐藤 恭子	
	○がん疼痛の機序、評価		夏　錦言	
	○WHO 方式がん性疼痛治療法		春成 学	
	○多様化する医療用麻薬の使用上の注意点（オピオイドの種類と特徴、副作用と対策）		安藤　孝	
			久保田敬乃	
	○NSAIDS		大溝 茂実	
	○神経因性疼痛及び鎮痛補助薬		鈴木果里奈	看護師
	○放射線療法や神経ブロックの適応も含めた専門的な緩和ケアへの依頼の要点		深井 清乃	
			森　充子	MSW
	○非薬物療法			
	○具体的なマネジメント方法			
	【ワークショップ】			

	○グループ演習による症例検討 　がん疼痛に対する治療と具体的な処方 休憩 『療養の場所と地域連携』 　がん患者の療養場所の選択、地域における医療連携、在宅における緩和ケア 【講義】 ○がん患者の療養場所の選択及び地域連携についての要点 ○在宅における緩和ケア 【ワークショップ】 ○グループ演習による症例検討 休憩 ふりかえり＆ポストテスト	16:05～17:35 ○90 分１単位	久保田敬乃 村瀬 樹太郎 佐藤 恭子 夏　錦言 春成 学 安藤　孝 大溝 茂実 鈴木果里奈 深井 清乃 森　充子	医師 看護師 MSW

② 緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会

偶数月、第３木曜日の夜に計５回開催しました。

この研修会は、より実践的に緩和ケアについて学ぶことができる内容で、2019 年度は、院内外より、延べ 163 人の医師・医療従事者の参加がありました。

緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会 研修参加人数(2019)

回	日時	医師		看護師		コメディカル		合計
		院外	院内	院外	院内	院外	院内	
第1回	5月16日	0	9	3	7	0	5	24
第2回	7月18日	3	6	12	9	8	4	42
第3回	9月19日	1	7	12	8	2	5	35
第4回	11月21日	1	7	6	9	4	7	34
第5回	2月20日	1	6	3	10	2	6	28
合計		6	35	36	43	16	27	163
		41		79		43		

令和元年度緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会プログラム

1.時間：18：30～20：30

2.場所：川崎市立井田病院　2階会議室

3.参加対象者：医療従事者、介護関係者等で在宅ケア・緩和ケアに従事している方及び関心のある方

4.プログラム日程表

	開催日	テーマ	講師	職種
第1回	5月16日	テーマ：がん患者の疼痛管理 「がん患者の難治性疼痛」 「がん患者の慢性疼痛」	 久保田敬乃 小島圭子	 医師 医師
第2回	7月18日	テーマ：患者と家族の緩和ケア 「患者と家族の心理ケア」 「がん患者の家族看護」 「がんの食事療法」	 福島沙紀 武見綾子 清宮友花	 心理士 看護師 管理栄養士
第3回	9月19日	テーマ：社会心理学から医療従事者が学ぶべき知見 「悲嘆に関する心理学的な知見」	 松井豊	 名誉教授
第4回	11月21日	テーマ:患者のQOLを高める医療・ケア 「緩和ケアにおける緊急症とその対応」 「がん患者の栄養療法」 「アピアランスケア」	 加藤薫 今村みれい 伊東かつえ	 医師 栄養士 看護師
第5回	2月20日	テーマ：がん患者と家族の思いを支える医療・ケア 「がん患者の家族のケア」 「医療倫理のおはなし」	 武見綾子 安藤孝	 看護師 医師

（3）かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会

2018年度に引き続き、地域がん診療連携拠点病院として、奇数月、第3木曜日の夜に計4回開催しました（第5回はコロナ感染症拡大のため中止）。

この症例検討会は、地域のニーズをふまえ、地域のネットワーク作りを目指した内容で、2019年度は、院内外より延べ149人の参加がありました。

かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会 研修参加人数(2019)

回	日時	医師		看護師		コメディカル		合計
		院外	院内	院外	院内	院外	院内	
第1回	6月30日	1	6	5	18	9	8	47
第2回	8月15日	1	4	7	11	3	2	28
第3回	10月17日	3	5	12	6	10	3	39
第4回	1月16日	1	6	5	6	14	3	35
合計		6	21	29	41	36	16	149
		27		70		52		

令和元年度かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会プログラム

１.時間：18：30～20：00

２.場所：川崎市立井田病院　２階会議室

３.参加対象者：医療従事者、介護関係者等で在宅ケア・緩和ケアに従事している方及び関心のある方

４.プログラム日程表

	開催日	テーマ	講師	職種
第１回	6月20日	テーマ：がんを患う親の子どもへの支援と死別時サポート		
		「がんを患う親の子どもへの支援と死別後サポート」	福島沙紀	看護師
		「がんを患う親の子どもへの支援と死別時サポート」	原田香奈	チャイルドライフスペシャリスト
		「がんの親をもつ子供のケア　１事例を通して」	岩本基実	看護師
第２回	8月15日	テーマ：病院と在宅の連携		
		「スキンケア・ストーマケア」	大溝茂実	看護師
		「希望を叶える支援」	正井薫	看護師
第３回	10月17日	テーマ：様々な場所での緩和ケア		
		「サービス付き高齢者住宅での緩和ケア	津田篤志 岡西塩理	代表取締役 看護師
		「在宅医療と複合施設での緩和ケアの実際とその限界」	鈴木忠	医師
第４回	1月16日	テーマ：医療依存度の高い患者の在宅ケアを支える		
		「医療依存度の高い患者の在宅看取り」	加藤薫	医師
		「医療依存度の高い患者の在宅看取り」	仁藤紀子	看護師
		「薬局と在宅看取り～薬剤師のかかわり」	山崎瑞恵	薬剤師

（4）　取組内容

ア　緩和ケアの現況と課題について

緩和ケア病棟の運営、転院相談、在宅緩和ケア、教育研修などの現況と問題点を委員で確認し課題解決に向けて検討しました。

イ　緩和ケア研修会の運営等について

今年度からは緩和ケア委員会のメンバーが主体となって運営しました。地域医療部の協力を得て広報が充実した結果、今年度も多数の参加を頂きました。

２　来年度に向けて

引き続き緩和ケア全般の課題、問題点を検討していくとともに緩和ケア関連の研修会の運営を委員会のメンバーで担っていきます。また、研修会の講師に外部講師を増やし、地域連携も進めていきたいと思います。

（文責　委員長[ケアセンター副所長]　佐藤　恭子）

43　がんサポート・緩和ケア部会

2003 年より緩和ケアチームとして活動を始め、2009 年６月から専従医師・専従看護師が配置されました。地域がん診療連携拠点病院として、院内および地域のがん患者とその家族に対して、質の高い緩和ケアの提供をめざし「がんサポートチーム」の名称で活動しています。

2018年４月から引き続き、専従医師として久保田敬乃医師が配置されました。専従看護師は、2019年４月から鈴木果里奈（緩和ケア認定看護師）が配置されました。その他のチームメンバーは精神科医、薬剤師、栄養士、公認心理師、理学療法士が所属し、多職種が連携してチーム医療を提供しています。

がんサポートチームは、一般病棟に入院中の緩和ケアを必要とする患者を毎日回診し、週２回の合同カンファレンスと週１回のチーム合同回診を行っています。2019年度がんサポートチーム依頼件数は556件でした。2012年から活動を開始した非がんサポートチーム依頼件数は14件でした。依頼内容は、疼痛、その他の症状、精神的ケア、家族ケア、療養場所の選択、意思決定など多岐にわたります。

国の指針である早期から緩和ケアの推進を具体化させる手段として、2014年５月から緩和ケアに関するスクリーニングを開始しています。2019年度のスクリーニング件数は494件でした。がんと診断された時から患者が切れ目のないケアを受けられるよう支援しています。運営委員会メンバーとして各部署にリンクナースを配置して、スクリーニングの推進とがん看護・緩和ケアに関するさまざまな活動を行っています。

さらに神奈川県がん診療連携協議会・緩和ケア部会で、県内の病院と緩和ケア提供体制について情報共有と相互評価を行い、がん患者の療養生活の質の向上に努めています。

（文責［がんサポートチーム専従看護師］鈴木　果里奈）

44　緩和ケア病棟運営部会

委員　緩和ケア科医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、栄養士、理学療法士、医療ソーシャルワーカー(緩和ケア病棟コーディネーター)

開催日(随時)　第３水曜　13 時 30 分から 14 時　看護記録室

緩和ケア病棟の運営に関する議題、家族会、各種イベントの企画運営、各部門との連携協力、緩和ケアチームとの協力、などの議論を行いました。

１　2019 年度の実績

（１）委員会開催実績

2019 年度は、委員会を２回開催しました。以下に委員会での主な議題を記載します。

2019 年度　緩和ケア病棟運営部会の主な議題

日　　時	主　な　議　題
10 月 30 日 13:30～	◎ 遺族会(2019/11/７)について
１月 22 日 13:30～	◎ 機能評価(2020/１/31)にむけて

緩和ケア病棟運営部会は 2020 年度より廃止し、その議論は病棟カンファレンス内でおこない、緩和ケア委員会に報告する形に変更します。

（文責　委員長[ケアセンター副所長]　佐藤　恭子）

Ⅷ　取得図書

1 利用統計（図書室所蔵資料等の統計）

（1）単行書

単行書	冊数
洋書	192
和書	3850
計	4042

(2020年３月31日現在)

（2）製本雑誌

製本雑誌	冊数
洋雑誌	848
和雑誌	1890
計	2738

(2020年３月31日現在)

（3）相互貸借

申入件数	受付件数
41	14

(2019年４月１日～2020年３月31日)

（4）メディカルオンライン利用統計

PDF ダウンロード件数	4408
FAX 取り寄せ件数	1

(2019年４月１日～2020年３月31日)

2 単行書受入

洋書　５冊
和書　68冊
視聴覚資料０点

3 EBMツール

1 UpToDate Anywhere
2 DynaMed
3 今日の診療（DVD格納版）

4 文献検索ツール

1 医学中央雑誌Web
2 最新看護索引Web

5 現行受入雑誌（洋雑誌）

1 Anesthesiology (Online)
2 Annals of Surgery(Online)
3 Arthritis and Rheumatology (Online)
4 Cancer(Online)
5 Chest(Online)
6 Clinical Infectious Diseases
7 JAMA
8 Journal of Bone and Joint Surgery[Am.vol](Online)
9 Journal of Clinical Oncology
10 Journal of Urology(Online)
11 New England Journal of Medicine

〈電子ジャーナルパッケージ〉

1 ProQuest Medical Database
2 Medline with Full Text
3 ClinicalKey

6 現行受入雑誌(和雑誌)

1 Expert Nurse
2 INFECTION CONTROL
3 INNER VISION(放射線科別置)
4 Japanese Journal of Medical Ultrasonics ＊
5 Orthopaedics
6 Visual Dermatology
7 クインテッセンス
8 クインテッセンス　デンタルインプラントロジー
9 月刊ナースマネジャー
10 消化器内科 ＊
11 ソーシャルワーク研究
12 日経ドラッグインフォメーション(薬剤部別置)
13 ペインクリニック
14 メディカル・テクノロジー(検査科別置)
15 レジデントノート
16 医学界新聞 ＊
17 看護
18 看護技術
19 看護人材教育
20 看護展望
21 緩和ケア
22 肝臓 ＊
23 急変ABCD+呼吸・循環ケア（改題：呼吸・循環・脳実践ケア）
24 救急医学
25 結核
26 月刊ナーシング
27 月刊新医療（放射線科別置）
28 腫瘍内科
29 消化器外科
30 消化器内視鏡（内視鏡C別置）
31 心エコー(検査科別置)
32 全国自治体病院協議会雑誌 ＊
33 地域連携・入退院支援
34 日経メディカル ＊
35 日本医師会雑誌 ＊
36 日本外科学会雑誌 ＊
37 日本環境感染学会誌 ＊
38 日本整形外科学会雑誌 ＊
39 日本透析医学会雑誌 ＊
40 日本内科学会雑誌 ＊
41 日本内視鏡外科学会雑誌 ＊
42 日本病院会雑誌 ＊
43 日本臨床外科学会雑誌 ＊
44 泌尿器外科
45 病院安全教育
46 保健師・看護師の結核展望
47 臨床リウマチ ＊
48 臨床栄養（食養科別置）
49 画像診断（放射線科別置）

*は寄贈雑誌

〈電子ジャーナルパッケージ〉

1 メディカルオンライン
2 医書.jp

編　集　後　記

2019 年は当院の開設 70 周年にあたり、４月に救急総合診療センターを設置し医療体制を強化、８月には在宅療養後方支援病院に指定され在宅医療体制を強化するなど、急性期医療を担う基幹病院として更なる発展を目指し取組を進めてまいりました。

また、2019 年度末には新型コロナウイルス感染症陽性患者の受入、その後においては神奈川モデル重点医療機関の指定を受け公立病院としてその役割を果たしているところです。

当院は、本市の人口が増加を続け、高齢化が急速に進む中、地域の皆様に最良・最適な医療を提供するために、地域の医療機関との連携を引き続き強化し、信頼され必要とされる市立病院となるよう職員一同全力を尽くしてまいります。

当院の活動の証として、この度、『病院年報』第 49 号（2019 年度版）を発行いたしました。年報発行に当たりご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

事務局長　北村　修

川崎市立井田病院年報

第 49 号（2019 年度版）

令和 2 年（2020 年）12 月発行

編集・発行　川崎市立井田病院

〒211-0035　川崎市中原区井田 2 丁目 27 番 1 号

電　話　　044（766）2188（代）

ＦＡＸ　　044（788）0231